

Intelligent Converter SANBOYAKU SERIES

会計参謀®

月次決算資料作成ソフトウェア

for 弥生会計

弥生会計27 対応版
ユーザーズマニュアル
(標準版／古田土会計版 共通)

- 弥生会計 スタANDARD
- 弥生会計 プロフェッショナル
- 弥生会計 AE
- 弥生会計 ネットワーク対応

27

Professional
Account Software
KAIKEI-SANBO

毎月の月次決算報告書を短時間で作成。
顧問先の財務諸表を視覚的に効果的に解りやすく
ビジュアル化し、財務コンサルティングを徹底サポート!
顧客満足度アップによる顧問契約の継続と
顧客拡大を推進するツール。

CONTENTS

第1章『会計参謀 for 弥生会計』の導入ガイド

1. ご使用前の注意事項 02
2. 『弥生会計』データの注意事項 02
3. アップデータ情報 03

第2章 新規作成

1. 環境設定 04
2. 画面の説明 09
3. 部門のデータ作成 09
4. 科目設定 10
5. 画面分割・解除 12
6. 売上・利益の過去データ入力 13
7. 表示設定 13

第3章 月次作業

1. 事業所データを開く 14
2. 旧製品のデータを開く 16
3. 帳票設定 18
4. 印刷 37

第4章 ファイル操作

1. データファイルとデータバックアップ
ファイルの場所 38
2. バックアップファイルの作成 38
3. バックアップファイルの復元 38
4. 事業所データの削除 39

第5章 Excelファイル出力

1. 事業所データのExcelへの保存 40
2. 過去データのエクスポート 41

第6章 次年度更新

1. 年度更新 42
2. 選択ファイルの変更 44
(『弥生会計』データファイル)

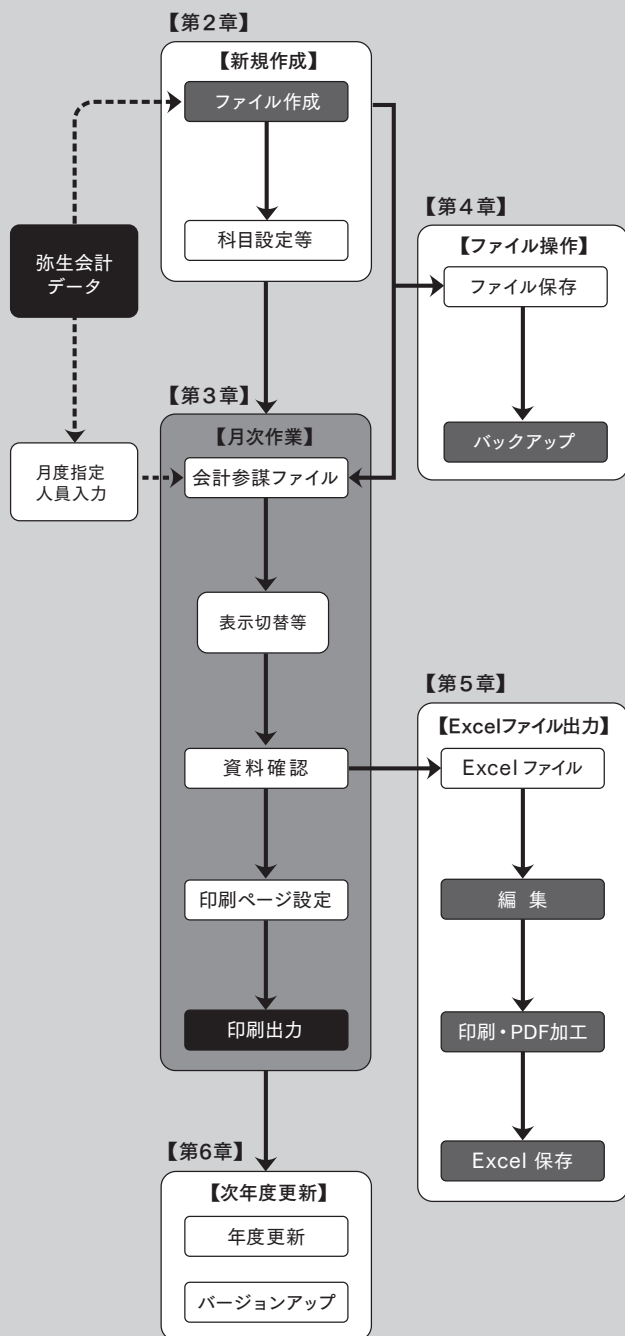
第7章 古田土会計版の設定

- 帳票設定 46

- 〈資料1〉科目設定集計項目リスト 58
- 〈資料2〉計算基礎項目一覧表 59
- 〈資料3〉分析項目計算式一覧 60
- 〈資料4〉古田土会計版 帳票計算式 62
- 〈資料5〉古田土会計版 CF項目の損益科目の
集計項目、計算方法 63

会計参謀操作の流れ

『会計参謀』のフローチャートです。
流れに沿ってマニュアルを参照してください。



第1章 『会計参謀 for 弥生会計』の導入ガイド

1. ご使用前の注意事項

- 本製品の動作には、Microsoft Excelと『弥生会計27』が別途必要となります。
対応しているExcelのバージョンは、ホームページにてご確認ください。
- 古田土会計版帳票は法人および個人／一般のみの対応となります。
- 『弥生会計27』がインストールされていない場合は動作いたしません。
- 取込可能な弥生会計データは弥生会計27～20の事業所データです。
- 弥生会計Nextおよび弥生会計オンラインの事業所データは対応しておりません。
- Excel Online は対応しておりません。
- 弥生ドライブにある事業所データは直接参照する事ができません。
弥生ドライブより「ダウンロード」してご使用ください。

2. 『弥生会計』データの注意事項

『会計参謀』で『弥生会計』データを取り込む場合、下記の条件を確認してください。

1. 『弥生会計』データの科目設定で、同一科目区分内で重複している科目名が存在しないこと。
※『弥生会計』データで過去データに重複している科目名が存在する場合は、重複している科目名を変更して、次年度更新を行ってください。
2. 『弥生会計』データで過去データの変更を行った場合は、全ての期で次年度更新処理が行われていること。
※『弥生会計』データで3期分のデータを保存している場合、第1期→第2期→第3期まで次年度更新処理を行ってください。
3. 『弥生会計』データに保存されている全ての期で、勘定科目体系が同じであること。
下記の例に示す勘定科目の構成の場合、『会計参謀』では読み込めません。
例) 第1期が「製造原価科目なし」の科目体系になっていて、
第2期以降で「製造原価科目あり」の科目体系に変更されている場合。
※『弥生会計』データ第1期の「事業所設定」で製造原価に関する科目を「使用する」に設定して、次年度更新を行ってください。
4. 『弥生会計』データに保存されている全ての期で、会計期間が変更されていないこと。
※会計期間を変更したデータを読み込む場合は、新規作成時に「当期データのみ取得」にチェックを入れてください。
5. 弥生会計データにパスワードを付けている場合は、常に「管理者」のパスワードを入力してください。
※「管理者」以外のユーザーは、管理者権限の有無に関わらずデータを参照することができません。
6. 『弥生会計』データに未確定勘定科目が使用されていないこと。複合に期末残高がないこと。
※『弥生会計』データの未確定勘定科目を確定してください。
7. 『弥生会計』の全ての事業年度で帳簿・伝票設定—「仕訳の入力を制限する」のチェックをはずしてください。

8. 『弥生会計』データの部門数が99部門以内であること。
※事業所(合計)と事業所(共通)を含めて99部門までとなります。
9. 『弥生会計』データの貸借科目が447以内であること。損益科目(損益科目+製造原価科目+不動産損益計算書の合計)が448以内であること。
※『弥生会計』データの科目区分・区分合計の科目も含めて447または448以内となります。
10. 『弥生会計』データの貸借科目、損益科目の一つの科目区分に登録されている科目数が「89」以内であること。製造原価科目の一つの科目区分に登録されている科目数が「79」以内であること。

3. アップデータ情報

アップデータ情報では、『会計参謀』最新プログラムの提供の有無が確認できます。

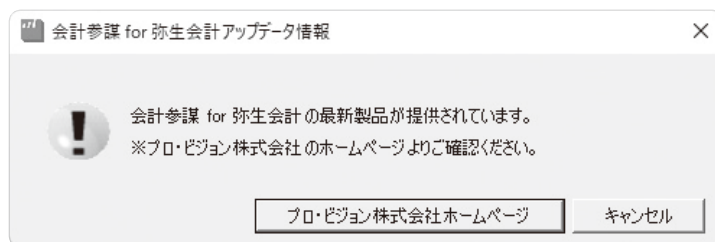
■『最新のプログラム』がインストールされている場合

「最新バージョンの会計参謀がインストールされています。」のメッセージが表示されます。

■『最新でないプログラム』がインストールされている場合

「会計参謀 for 弥生会計の最新プログラムが提供されています。」のメッセージが表示されます。「プロ・ビジョン株式会社ホームページ」ボタンをクリックすると、「BIZサポート会員様専用サイト」のページへアクセスします。ユーザーID、パスワードを入力しログイン後、最新プログラムをダウンロードして、インストールを行ってください。

※ユーザーID・初期パスワードはお手元の登録証を参照ください。



アップデータ情報の設定は、製品の「ヘルプ」より「バージョン情報」で確認ができます。「起動時、インターネットに接続されている場合にアップデータ情報をチェックする。」にチェックが入っていると、起動時に最新プログラムの有無の確認を自動で行います。

※初期値はチェックが入っています。

- ☐ インターネットへの接続については、Windowsのヘルプや、お使いのPCのマニュアルや関連書籍などを参照してください。弊社では、インターネットへの接続方法についてのサポートは行っておりません。

第2章 新規作成

1. 環境設定

※メニューバー「ファイル」より設定を行います。

1. 会計事務所情報

① デスクトップの『会計参謀 for 弥生会計』アイコンをダブルクリックします。(アイコンが表示されない場合は、Windowsの「スタート」ボタンをクリックして「プログラム」を選択し、『会計参謀 for 弥生会計』をクリックしてください。)

② 会計事務所情報の画面が表示されます。事務所名等の項目を入力し、「OK」ボタンをクリックします。入力後の編集は、「ファイル」より「会計事務所情報設定」にて可能です。

※会計事務所情報の画面は、インストール後、初回起動時のみ表示となります。

報告書表紙に印字されます。

各帳票に印字される年の表示形式を選択します。

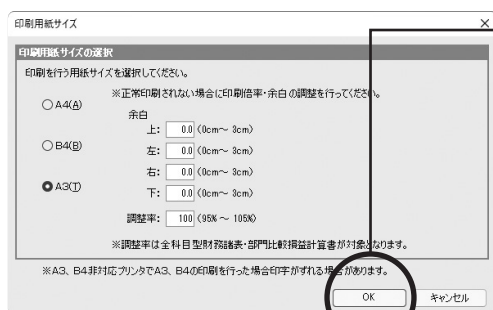
2. 表示帳票グラフ初期値設定

会計参謀では、事業所データを新規作成する際に、作成する帳票を選択します。使用しない帳票のチェックをOFFにすることで、データの読み込み速度がアップします。

チェックのON・OFF状態は、事業所データファイルごとに保存され、弥生会計データの読込時に変更することもできます。

注意 この画面では、新規作成時におけるチェック状態の初期値を設定します。初期値の設定内容は、システムごとに保存されます。

3. 印刷用紙サイズの設定



サイズを選択し、「OK」ボタンをクリックします。初期値は「A3」となります。

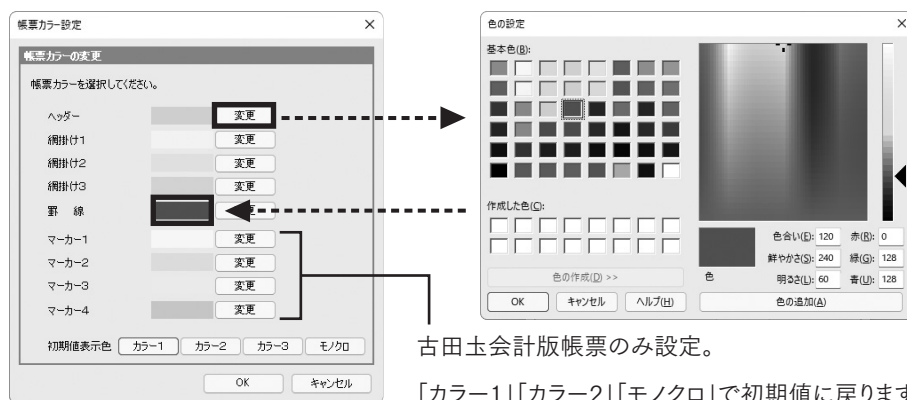
※調整率は、複数ページにまたがる帳票の印刷時における拡大・縮小率を設定します。

対象帳票：全科目型財務諸表・部門比較損益計算書・月次推移損益計算書(古田土会計帳票)・三期比較損益計算書(古田土会計帳票)

注意 印刷用紙サイズの設定は、システムごとに保存されます。事業所データによって印刷サイズが異なる場合は、起動時に設定を変更してください。

4. 帳票カラー設定

「会計参謀」の帳票の表示色を変更できます。用意されているカラーパターンを切り替えられるほか、「変更」ボタンからオリジナル色を作成・設定することも可能です。

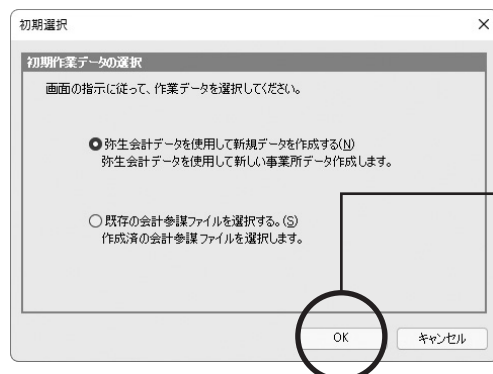


古田土会計版帳票のみ設定。

「カラー-1」「カラー-2」「モノクロ」で初期値に戻ります。

注意 表示色設定はシステムごとに保存されます。

5. 事業所データの新規作成



① 新規データを作成するにチェックをして、「OK」ボタンをクリックします。

『弥生会計』データの並び順を「昇順」「降順」に変更して選択できます。

「絞り込み機能を使う」にチェックを入れ、弥生会計データ名を入力するか、弥生会計のバージョンを選択することで一覧に表示されるデータを絞り込むことができます。

『弥生会計』データの保存先が表示されます。『弥生会計』データが表示されない場合は、「参照先」ボタンで保存場所を選択します。(p8参照)
※弥生ドライブの事業所データを参照する場合は、弥生ドライブより「ダウンロード」を行い、ダウンロードしたフォルダを『会計参謀』の「参照先」で指定してください。

②『弥生会計』データを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

③事業年度切り替えにより、作成する事業年度が選択できます。
※初期値は『弥生会計』データを最後に開いた期になります。

④読込期間を設定します。

⑤読込オプション

⑥設定内容を確認後、「OK」ボタンをクリックします。

・当期データのみ取得

表示決算期のみを取り込む場合はチェックを入れます。初期値はチェックが外れています。

・残高0科目を表示する。

科目残高が0円の科目を表示する場合は、チェックを入れます。初期値はチェックが外れています。

・部門データの取得 ※『弥生会計』データに部門設定がなければ使用不可になります。

部門データを作成したい場合は、チェックを入れます。初期値はチェックが外れています。

・前期比較 期首から累計比較

前期比較データを期首から読込期間まで累計で比較したい場合は、チェックを入れます。

初期値はチェックが入っています。

⑦事業所名を変更したい場合は編集(入力)します。

⑧人員数設定で人員情報を設定します。後からの設定も可能です。「1人当たりへの表示切替」で次の**⑨**～**⑫**で設定を行ってください。

※内容を確認し「OK」ボタンをクリックしてください。画面が終了したら完了です。

⑨役員数を「含める」「含めない」を選択します。

⑩「正社員」「アルバイト」「パート」の換算人数を入力してください。

⑪役員からパートまでの人員を入力します。(前期・前々期も同様)
※合計は換算基準に基づき計算された値となります。

⑫内容を確認し「OK」ボタンをクリックします。

人員数が毎月違う場合はチェックがついても上書き入力が可能です。

⑬内容を確認し「OK」ボタンをクリックします。

※データ保存場所を変更する場合は「参照」ボタンで指定してください。初期値はファイル操作(p38)参照

⑭表示する帳票を選択し「OK」ボタンをクリックします。

※財務諸表(損益計算書・貸借対照表・CF計算書等)は、常に表示されます。表示／非表示を切り替え可能な帳票のみ、選択画面で帳票名が表示されます。

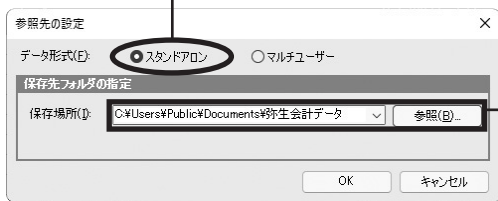
⑮画面が終了したら完了です。

5. 参照先の設定

『弥生会計』データが保存されているフォルダまたはサーバーを選択します。

取り込む『弥生会計』のデータ形式をスタンドアロンまたはマルチユーザーから選択してください。

■取り込む『弥生会計』のデータ形式がスタンドアロンの場合



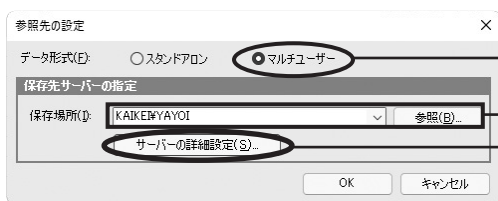
①データ形式「スタンドアロン」を選択します。

②保存場所を選択します。

- ・「保存場所」欄右側の▼をクリックすると『弥生会計27』および『会計参謀27』で参照したフォルダのリストが表示されます。
- ・保存場所を変更する場合は「参照」ボタンをクリックし、ダイアログより保存先を選択することができます。

③保存場所のフォルダを確認し、「OK」ボタンをクリックしたら完了です。

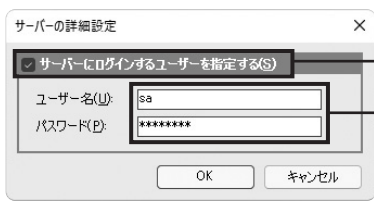
■取り込む『弥生会計』のデータ形式がマルチユーザーの場合



①データ形式「マルチユーザー」を選択します。

②「参照」ボタンで『弥生会計』データが保存されているサーバーを選択します。

③「サーバーの詳細設定」ボタンをクリックします。



④「サーバーにログインするユーザーを指定する(S)」にチェックを入れます。

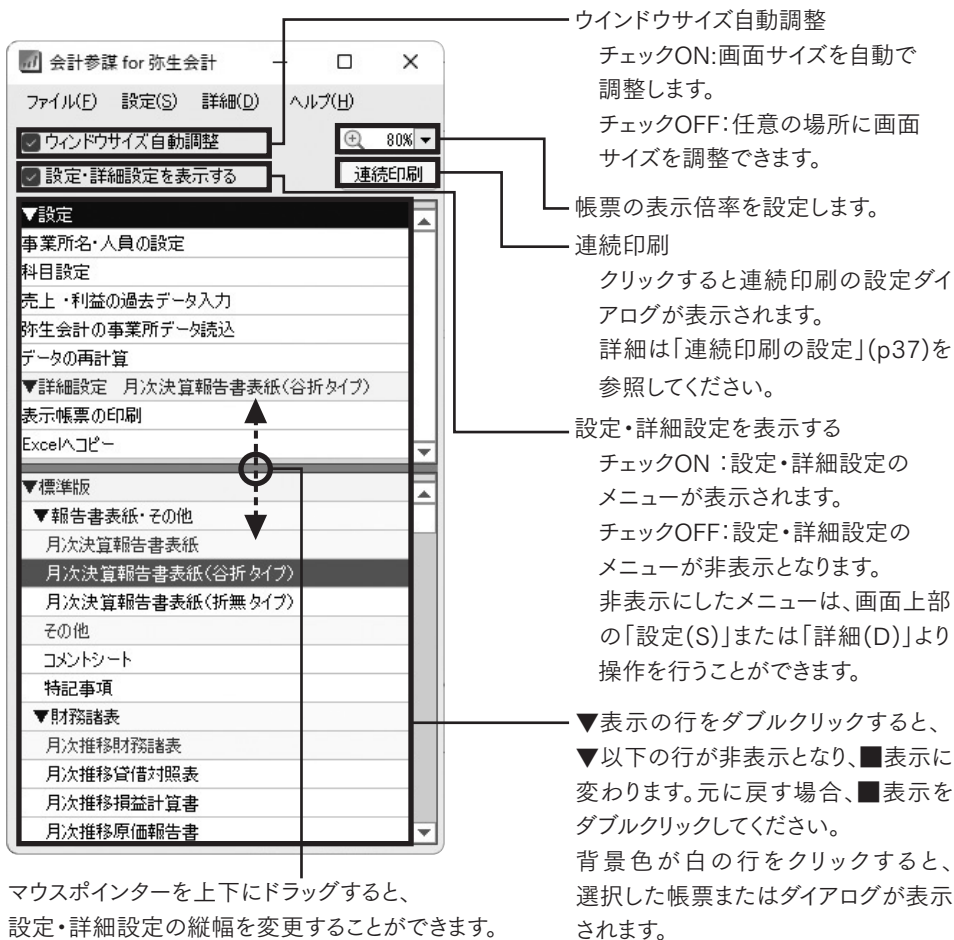
⑤『弥生会計』のデータベースをインストール時に設定したユーザー名とパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。参照先の設定画面に戻り「OK」ボタンをクリックしたら完了です。

※ユーザー名・パスワードは『弥生会計』のデータベースインストール時に設定されています。

Windowsのユーザーアカウント名、パスワードとは異なりますのでご注意ください。『弥生会計』の「参照先の設定」より「サーバーの設定」画面と同じユーザー名とパスワードを入力してください。

2. 画面の説明

会計参謀の画面構成は次のとおりです。



3. 部門のデータ作成

※パソコン環境によってはデータの読み込みに時間がかかる場合があります。

『会計参謀 for 弥生会計』では、部門単位での帳票作成が可能です。部門帳票作成には事業所データを作成時に「部門データの取得」にチェックを入れます。また、『弥生会計』データの再読み込み時でも同じ設定ができます。※『弥生会計』データに部門設定がなければ表示されません。

読込設定情報

期間

読込オプション ☐ 当期データのみ取得 ☐ 残高0科目を表示する

☒ 部門データの取得 ☒ 前期比較 期首から累計比較

部門のデータの初期値は事業所データ(全社)となりますので、部門単位で作成したい場合は「全帳票の部門一括切替(参照p18)」で出力したい部門を選択します。

10

項目名	項目の説明
現預金項目 ※	
現預金区分	古田土会計帳票「合計残高試算表(貸借対照表)」の「現金預金の内訳」に表示される区分を設定します。
資金総括項目 ※	
資金総括区分	古田土会計帳票「資金力アップグラフ」と「月次コメント」の資金総括表に集計される項目を選択します。
変動損益項目	
変動損益区分	変動損益関連の帳票・グラフ(古田土会計帳票「損益計算書」の帳票も含まれます)に表示される科目の集計区分を「売上」または「費用」から選択します。 「費用」を選択した場合は「固定比率」と「変動比率」に入力された比率に従って、固定費と変動費に集計されます。
固定比率	固定費に集計する比率(%)を設定します。
変動比率	変動費に集計する比率(%)を設定します。
固定費区分	固定比率が1%以上に設定されている場合、集計先となる固定費の区分を選択します。

※古田土会計版のみの機能

<各ボタンの説明>

閉じる	科目設定の編集を終了し、画面を閉じます。 ※科目設定の編集を行った場合は、閉じた後に「データの再計算」を行ってください。
編集	科目の編集画面を開きます。
Excel	「Excelへの書き出し」ダイアログが表示され、科目設定の内容をExcelファイルに保存することができます。保存したExcelファイルをインポートすることはできません。
表示優先	表示科目優先順設定画面を開きます。
区分クリア ※古田土会計版 のみの機能	製造原価科目の変動損益区分を全てクリアします。変動損益区分をクリアすると、製造原価科目の合計金額が「当期製造原価」として変動費に表示されます。

＜表示科目 優先順画面の説明＞

科目区分内で科目を表示する順番を設定することができます。初期状態は優先順が空白となっており、帳票に表示される順番は表示科目優先順画面の科目並び順(『弥生会計』の科目並び順に基づいた順番)となります。

優先順を設定すると、数値が小さい科目から順番に表示され、数値の大小に関わらず優先順が空白の科目より上に表示されます。科目区分内で同じ優先順を設定している科目は、表示科目優先順画面の並び順で表示されます。

表示科目 優先順

項目切替 ☒ 標準科目 ☐ 変動損益科目 ☐ 古田土損益科目

標準科目

貸借科目 損益科目 製造原価科目

科目名	優先順
[売上高]	
売上高	
売上値引高	
売上戻り高	
売上割戻し高	
役務収益	
[売上原価]	
期首棚卸高	
仕入高	
仕入値引高	
仕入戻し高	
仕入割戻し高	
期末棚卸高	
[販売管理費]	
人件費	
役員報酬	
役員賞与	
給料手当	
雑給	
賞与	
退職金	
法定福利費	
福利厚生費	
退職給付費用	
採用教育費	

優先順クリア OK キャンセル

優先順を設定する項目を切り替えます

- ・標準科目
弥生会計の科目区分を使用している財務諸表の表示優先順を設定します。標準科目には、貸借科目、損益科目、製造原価科目などが含まれます。
- ・変動損益科目
標準版の月次変動損益計算書に表示する科目の表示優先順を設定します。
- ・古田土損益科目
古田土会計帳票の月次推移損益計算書、三期比較損益計算書、部門別損益計算書(期間・累計)、合計残高試算表(損益計算書)に表示する科目の表示優先順を設定します。

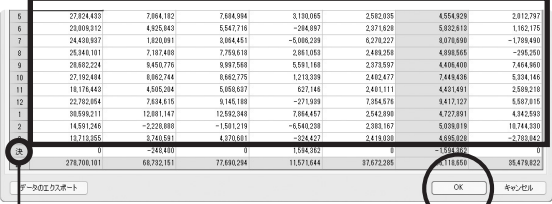
優先順クリア
項目切替で選択した項目の優先順を全てクリアします。

5. 画面分割・解除

画面上部のメニュー「設定(S)」より「画面分割・解除(L)」をクリックすると、表示しているシートを4分割します。Excelのリボン上にある「分割」と同じ機能になります。シートの分割を解除するには、分割枠をダブルクリックするか、再度「画面分割・解除(L)」をクリックしてください。

6. 売上・利益の過去データ入力

『弥生会計』データに過去データが入っていない場合に入力します。入力した数値は業績推移グラフに反映されます。(導入次年度からは、年度更新を行うことで残高を自動で繰り越します。)



「決」には、決算仕訳の数値を入力します。

※粗利益＝売上高－変動費(科目設定の変動損益項目で変動費に設定した科目の合計)

※人件費(科目設定の変動損益項目で人件費に設定した科目の合計)

※売上高・売上総利益・経常利益＝試算表の数値

1期前、2期前、3期前をタブで選択し、各期の過去データ数値を入力します。入力完了後に「OK」ボタンをクリックしてください。×をクリックして画面を閉じた場合は保存されません。

●部門単位の過去データ入力する場合

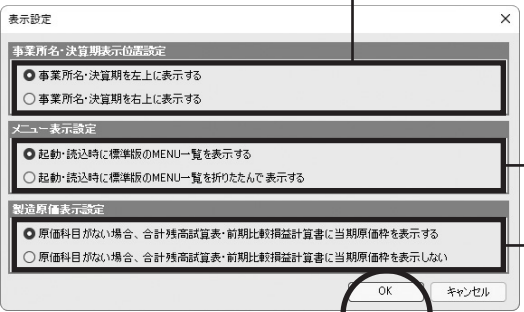
過去データを入力する部門を選択し、データを入力します。(入力方法は上記と同じです。)

●営業CFの数値について(古田土会計版のみの機能)

営業CF＝科目設定の古田土CF項目に基づいて集計された金額。

7. 表示設定

表示設定では、各帳票の印字や会計参謀のMENUの表示を切り替えることができます。



①帳票に印字する事業所名と決算期の位置を左上から右上に切り替えることが可能です。

②標準版の帳票MENUを「表示する」から「折りたたんで表示する」に切り替えることが可能です。
古田土会計帳票のみご使用になる場合、標準版のMENUを折りたたむと、操作がしやすくなります。

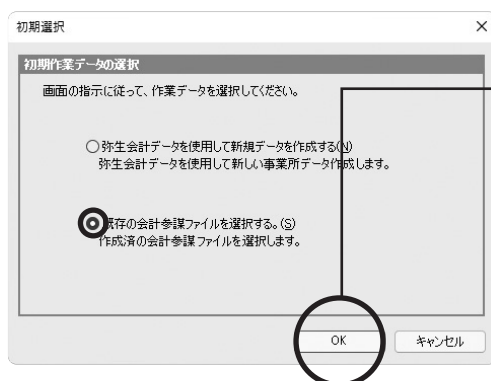
③製造原価なしのデータの場合、合計残高試算表(損益計算書)と前期比較損益計算書の空白の当期製造原価欄を「表示」から「非表示」に切り替えることが可能です。

④OKボタンをクリックします。

第3章 月次作業

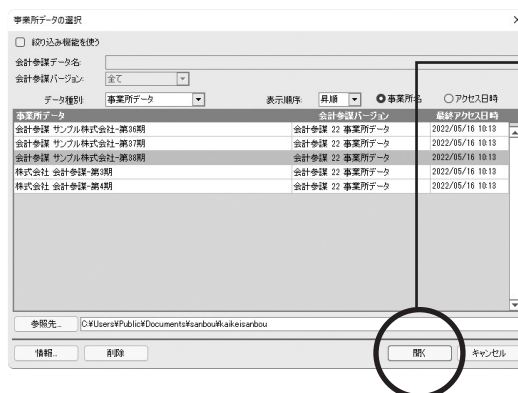
1. 事業所データを開く

①アイコンより『会計参謀 for 弥生会計』をクリックします。



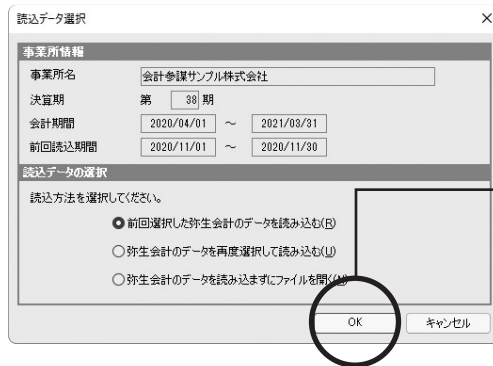
「既存の会計参謀ファイルを選択する」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

②事業所データの選択のダイアログが表示されます。



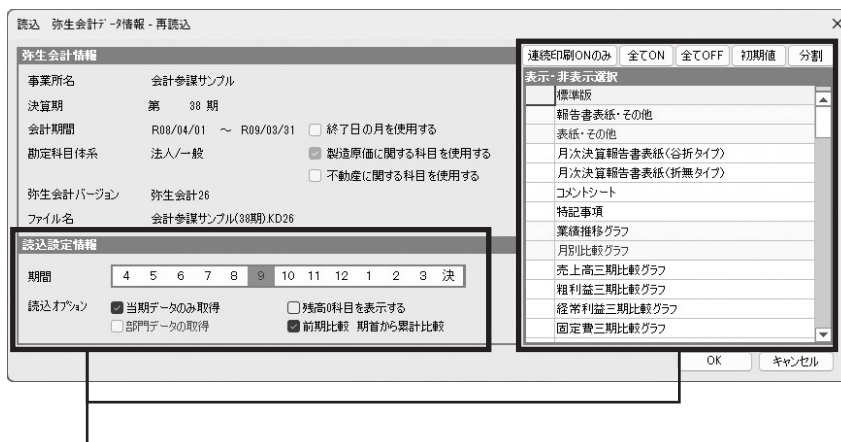
事業所データを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

※目的の事業所データが表示されない場合は、「参照先」ボタンで事業所データの保存場所を選択してください。



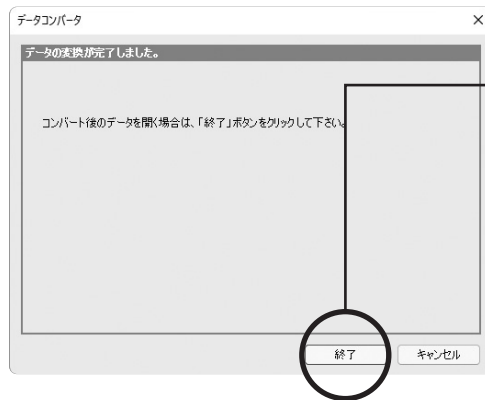
※『弥生会計』データの場所が変更されている場合、もしくは『弥生会計』データのファイル名が変更されている場合は、「弥生会計のデータを再度選択して読み込む」を選択し、「OK」ボタンをクリックした後に、変更した『弥生会計』のデータを選択してください。

※『弥生会計』データの読み込みを実行せずに前回作成したファイルを開く場合は、「弥生会計のデータを読み込まずにファイルを開く」を選択します。

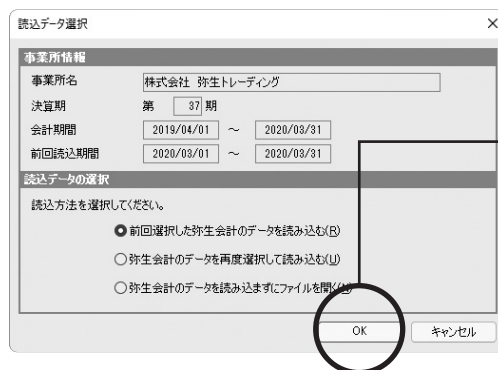


●『会計参謀』の事業所データを切り替える場合

「ファイル」より「開く」をクリックすると「事業所データを選択」のダイアログが表示されます。



⑥コンバートの完了画面が表示されたら、「終了」ボタンをクリックします。



⑦コンバートが完了しましたら、弥生会計データの読込画面が表示されます。

「前回選択した弥生会計のデータを読み込む」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

※『弥生会計』データの場所が変更されている場合、もしくは『弥生会計』データのファイル名が変更されている場合は、「弥生会計のデータを再度選択して読み込む」を選択し、変更した『弥生会計』のデータを選択してください。

※『弥生会計』データの読み込みを実行せずに旧製品で作成したファイルを開く場合は、「弥生会計のデータを読み込まずにファイルを開く」を選択します。



「期間」及び「読込オプション」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

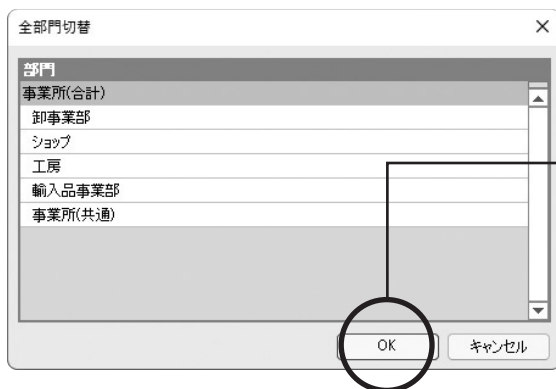
3. 帳票設定

1. 全帳票の部門一括切替

※作成時に「部門データの取得」を選択した場合のみ、本機能を使用できます。

◎パソコン環境によっては切替に時間がかかる場合があります。

『弥生会計』データ読込後に部門を選択します。選択された部門が全ての帳票に反映されます。



作成したい部門を選択し、「OK」ボタンをクリックします。全社の場合は、事業所(合計)となります。

注意



各種設定画面は、全帳票の部門一括切替で設定された部門が表示されます。

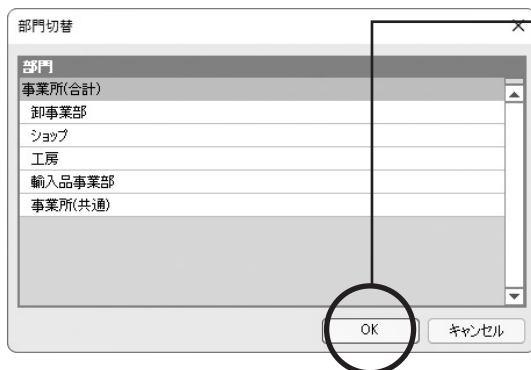
2. 部門切替

※作成時に「部門データの取得」を選択した場合のみ、本機能を使用できます。

財務諸表の月次キャッシュフロー計算書、部門比較計算書を除く全て

全科目型財務諸表

各種帳票ごとに、表示したい部門に切り替えることができます。例えば、月次推移計算書は部門個別で出力できます。「ショップ」の部門選択をした場合は、次のような表示となります。



部門を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

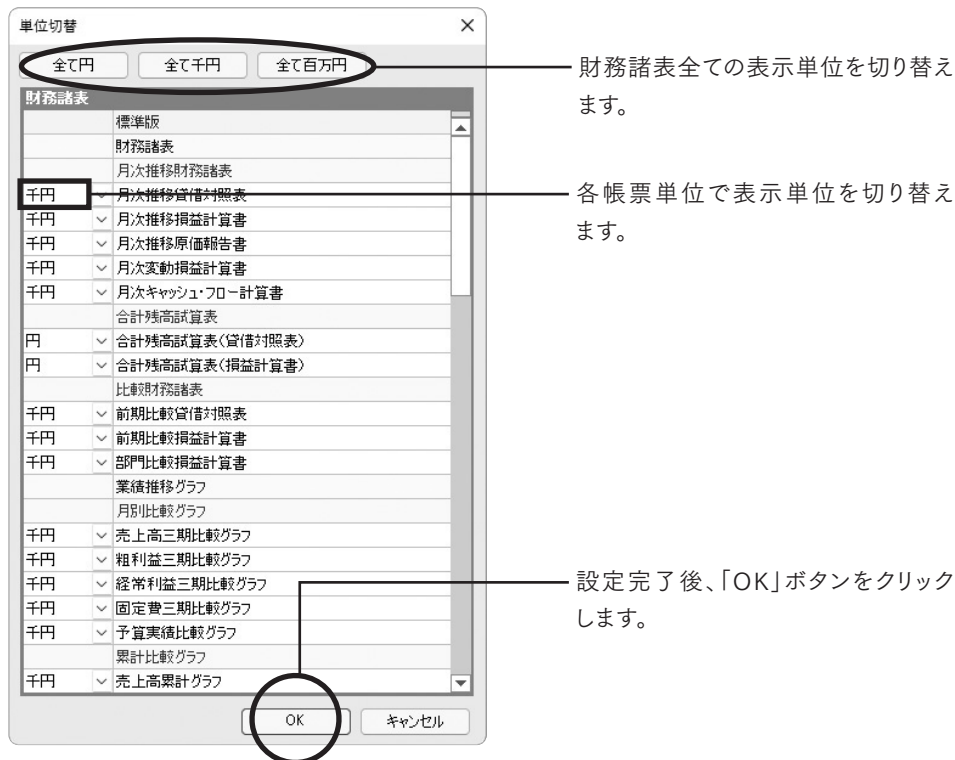
株式会社 会計参謀サンプル 第38期				5ヵ月経過
勘定科目	期首残高	増減比	4月	
現金・預金合計	457,251	76.5	457,622	
受取手形	4,044	0.7	6,045	
その他売上債権	60,192	10.1	69,282	
売上債権合計	64,236	10.8	75,327	



株式会社 会計参謀サンプル 卸事業部 第38期				5ヵ月経過
勘定科目	期首残高	増減比	4月	
現金・預金合計	△4,542	-4.3	△4,542	
売上掛金	17,670	16.6	17,670	
売上債権合計	17,670	16.6	17,670	

3. 表示単位の切替

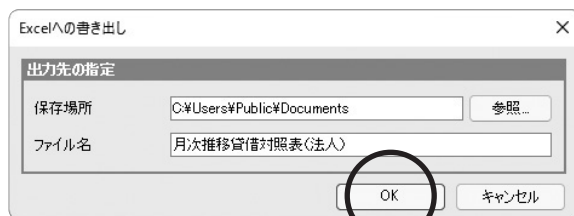
帳票の表示単位切替が可能です。



4. Excelへコピー

表示中の帳票をExcelへコピーします。

「Excelへコピー」ボタンをクリックします。「Excelへの書き出し」のダイアログが表示されます。



5. 推定棚卸計算の設定

月次推移損益計算書(標準版/古田土会計版)

月次変動損益計算書(標準版)

月ごとの棚卸額を推定計算します。設定方法には、取込月までの同じ利益率で計算する「一括推定計算をする」と、月別に利益率を設定する「月別推定計算をする」方法があります。

計算方法を選択し、項目の設定を行います。入力完了後、「OK」ボタンをクリックしてください。



- 注意**
- 最初の月の期首棚卸高は、貸借対照表の棚卸合計の金額になります。未成工事・原材料は合計されて、期首棚卸となります。また、推計棚卸で計算された結果は、他の財務諸表と連動しません。推移計算書のみ計算されますので、他の財務諸表と利益に差額が生じます。
 - 元の数値に戻す場合は、「編集内容のクリア」ボタンをクリックしてください。

勘定科目	前々期	前月	当期	4月	5月	6月
売上高	28,429	26,960	26,360	23,730	29,371	26,360
売上高	28,429	26,960	26,360	23,730	29,371	26,360
前期繰上高				24,147	30,000	26,850
期首棚卸高	19,311	15,656	15,509	16,518	18,741	16,639
仕入戻し高						
仕入割戻し高						
当期製品製造原価	1,302	4,346	4,157	2,267	3,009	2,611
期末棚卸高	20,613	20,001	19,656	18,462	21,750	19,656
売上原価	2,816	6,959	6,594	4,946	7,621	7,110
売上総利益金額						
(売上総利益率)	(27.5%)	(25.8%)	(25.4%)	(20.8%)	(25.9%)	(27.0%)

推計棚卸計算を設定すると、最初の月の期首棚卸には、貸借対照表の期首棚卸合計が自動転記されます。その後は前月の期末棚卸が表示されます。期末棚卸は、設定された利益率で計算された数字が表示されます。

●一括推定計算
固定利益率を30%に設定した場合

勘定科目	前々期	前月	当期	4月	5月	6月
売上高	28,429	26,960	26,360	23,730	29,371	26,360
売上高	28,429	26,960	26,360	23,730	29,371	26,360
前期繰上高				24,147	30,000	26,850
期首棚卸高			7,977	2,006	4,179	5,370
仕入戻し高	19,311	15,656	15,509	16,518	18,741	16,639
仕入割戻し高						
当期製品製造原価	1,302	4,346	4,157	2,267	3,009	2,611
期末棚卸高			△9,191	△4,179	△5,370	△6,169
売上原価	20,613	20,001	18,462	16,611	20,580	18,462
売上総利益金額	7,816	6,959	7,908	7,119	8,811	7,908
(売上総利益率)	(27.5%)	(25.8%)	(30.0%)	(30.0%)	(30.0%)	(30.0%)

●月別計算方法 月別に利益率を入力

勘定科目	前々期	前月	当期	4月	5月	6月
売上高	28,429	26,960	26,360	23,730	29,371	26,360
売上高	28,429	26,960	26,360	23,730	29,371	26,360
前期繰上高				24,147	30,000	26,850
期首棚卸高			7,701	2,006	4,179	4,782
仕入戻し高	19,311	15,656	15,509	16,518	18,741	16,639
仕入割戻し高						
当期製品製造原価	1,302	4,346	4,157	2,267	3,009	2,611
期末棚卸高			△8,875	△4,179	△4,782	△5,044
売上原価	20,613	20,001	18,493	16,611	21,147	18,199
売上総利益金額	7,816	6,959	7,868	7,119	8,224	8,172
(売上総利益率)	(27.5%)	(25.8%)	(29.8%)	(30.0%)	(28.0%)	(31.0%)

6. 未経過月予測編集の設定

月次推移損益計算書(標準版)

月次変動損益計算書(標準版)

月次推移損益計算書で未経過月の数字を編集し、決算を予測します。未経過月の空白行を、決算月までオプションボタンの内容で編集します。



編集後の当期月平均は
予測累計額 ÷ 12となります。

未経過月設定

売上高

☐ 数値なし ☒ 当期平均 ☐ 前期実績 ☐ 当期予算

売上原価

☐ 数値なし ☒ 当期平均 ☐ 前期実績 ☐ 当期予算

人件費

☐ 数値なし ☒ 当期平均

販売管理費

☐ 数値なし ☒ 当期平均

営業外収益

☐ 数値なし ☒ 当期平均

営業外費用

☐ 数値なし ☒ 当期平均

OK キャンセル

《設定前》

11月	12月	1月	2月	3月
19,625	305			
19,625	305			
19,994	24,575	33,762	16,060	9,737

《設定後》

11月	12月	1月	2月	3月
19,625	305	23,465	23,465	23,465
19,625	305	23,465	23,465	23,465
19,994	24,575	33,762	16,060	9,737



- 編集したシートの数値を元に戻したい場合は、「編集内容のクリア」ボタンで再計算を実行してください。
- 過去データ・予算設定を入力していない場合は、オプションボタンで「前期実績」・「当期予算」を選択しても数値は空白となります。
- 予測編集で編集された内容は、他の財務諸表と連動しません。
- 予測編集後の数値を変更したい場合は、コピー機能よりシートコピーを行い、Excelファイルで直接入力をしてください。

7. 1人当たりへの表示切替

月次推移損益計算書(標準版)

月次変動損益計算書(標準版)

変動損益計算図表

三期比較グラフ

人員設定で入力した人員を基に1人当たりの月次推移損益計算書及び1人当たりの変動損益計算書を作成することができます。また、部門単位で作成することも可能、三期比較グラフでも1人当たりでの表示が可能です。「編集内容のクリア」ボタンで元に戻すことができます。

人員設定

部門 事業所(会計) -

人員情報

※換算基準(小計点第二(四捨五入))

役員 役員を 定める

正社員 人員を ☐ 1人で1人と換算する

アルバイト 人員を ☐ 2人で1人と換算する

パート 人員を ☐ 2人で1人と換算する

当期 前期 前々期

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
役員	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
正社員	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
アルバイト	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
パート	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
合計	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5

■ 人員数の2ヶ月目以降を1ヶ月目と同様にする

OK キャンセル

〇〇株式会社 第3期 7月経過

勘定科目	前々期	前期	当期	4月
売上高	1,611	1,302	1,321	1,206
売上高合計	1,611	1,302	1,321	1,206
前期売上高				1,134

「人員設定」で設定された数値が表示されます。「OK」ボタンをクリックします。



- 編集された数値は他の帳票には反映されません。
- 1人当たり編集されている状態で、他の編集はできません。
「編集内容のクリア」で編集前に戻して設定を行ってください。
- 前期・前々期に人員が設定されてないと数値が空白となります。

8. 特定科目の利益振替

※個人事業所データでは、この機能は使用できません。

月次推移損益計算書(標準版)

月次変動損益計算書(標準版)

労働分配率推移グラフ

1人当たりの経常利益グラフ

貸借対照表構成推移グラフ

代表者の借入金等を資本金に換算したり、役員報酬や代表者へ経費等を利益換算し、シミュレーションします。同族会社で個人経営を法人成りしたような零細企業を分析するため、個人換算分析を使用します。「月次推移損益計算書・月次変動損益計算書」では、役員報酬や代表者の経費等を利益に振替えて表示することができます。「編集内容のクリア」ボタンで元に戻すことができます。貸借対照表構成推移グラフには代表者の借入金を資本に換算する機能があり、労働分配率推移グラフ・1人当たりの経常利益グラフには役員報酬やその他の経費を利益に換算できる機能があります。

「人件費」「他経費」それぞれ勘定科目を選択します。

(月次推移損益計算書)

利益に振替える金額を入力します。

「個人経営に換算する」「個人経営に換算しない」を選択します。

(貸借対照表構成推移グラフ)

換算する数値を入力します。



注意

編集された数値は他の帳票には反映されません。

9. 前期決算仕訳の計算設定

月次推移損益計算書(標準版/古田土会計版)

月次変動損益計算書(標準版)

月次推移損益計算書の「最終月」の前期実績に集計される金額を決算仕訳を「含まない」から「含む」に切り替えることが可能です。

前期決算仕訳 表示切替

表示切替

決算仕訳を含む

決算仕訳を含まない

OK キャンセル

※四角い枠で囲っている3箇所が、決算仕訳「含まない」→「含む」に切り替わります。

※「月平均」の前期実績は、設定内容に関わらず、読込月までの平均金額が集計されます。

月次推移損益計算書

※ 決算月の前期実績は決算仕訳を含む

23

11. 税引前／税引後の表示切替

※個人事業所データでは、この機能は使用できません。

月次CF計算書

CF資金バランス図

※CF:キャッシュフロー

キャッシュフロー計算書(間接法)の表示を「税引前当期純利益」から「当期純利益」へ表示切替ができます。表示切替により「月次キャッシュフロー計算書」・「キャッシュフロー資金バランス図」が切り替えられて表示されます。

キャッシュフロー 当期純利益 表示切替

表示切替

税引前当期純利益

当期純利益

※キャッシュフロー計算書(間接法)の最初の行を
税引前当期純利益⇄当期純利益に切替えます。

OK キャンセル

税引前当期純利益から
当期純利益へ切り替えられます。

【通常のCF計算書 間接法】

キャッシュ・フロー項目		第1期
営業活動によるキャッシュ・フロー	税引前当期純利益	12,521
	減価償却費	3,948
	引当金増減額	
	受取利息・受取配当金	△8
	支払利息	1,052
	有価証券売却損益	
	固定資産売却損益	
	固定資産除却損	
	その他非資金項目の増減	
	売上債権の増減額	△5,358
投資活動によるキャッシュ・フロー	棚卸資産の増減額	△253
	その他資産の増減額	△4
	仕入債務の増減額	41,162
	割引手形・裏書手形の増減	800
	未払金・未払費用の増減	
	未払法人税等の増減	
	未払消費税等の増減	△122
	その他負債の増減額	493
	役員賞与の支払額	
	(小計)	54,230
営業外活動によるキャッシュ・フロー	利息及び配当金の受取額	8
	利息の支払額	△1,052
	法人税等の支払額	△6,402
合計		46,785

【米国基準のCF計算書 間接法】

キャッシュ・フロー項目		第1期
営業活動によるキャッシュ・フロー	当期純利益	10,319
	減価償却費	3,948
	引当金増減額	
	受取利息・受取配当金	△8
	支払利息	1,052
	有価証券売却損益	
	固定資産売却損益	
	固定資産除却損	
	その他非資金項目の増減	
	売上債権の増減額	△5,358
投資活動によるキャッシュ・フロー	棚卸資産の増減額	△253
	その他資産の増減額	△4
	仕入債務の増減額	41,162
	割引手形・裏書手形の増減	800
	未払金・未払費用の増減	
	未払法人税等の増減	△4,200
	未払消費税等の増減	△122
	その他負債の増減額	493
	役員賞与の支払額	
	(小計)	47,829
営業外活動によるキャッシュ・フロー	利息及び配当金の受取額	8
	利息の支払額	△1,052
	法人税等の支払額	
合計		46,785

未払法人税等の増減額を表示

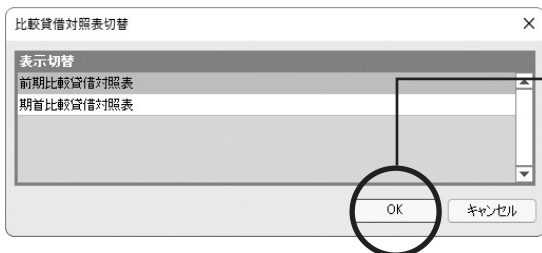
法人税等の支払額を削除

12. 前期比較／期首比較の表示切替

前期比較貸借対照表

比較貸借対照表構成図

前期比較貸借対照表から期首比較貸借対照表へ変更することができます。期首比較貸借対照表では、貸借対照表を期首比較の差額で表示することにより、当期利益と資産・負債・資本の増減とをマッチングさせることができますので、キャッシュフロー計算書等の説明に使用すると効果的です。



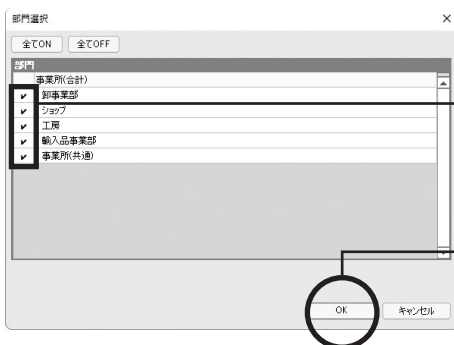
表示切替で「前期」もしくは「期首」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。帳票が『前期』⇔『期首』で表示されます。

13. 部門選択

部門比較損益計算書

部門別損益計算書

部門比較損益計算書では、表示したい部門の選択ができます。事業所合計は選択された部門の合計ではなく、全社合計額が表示されます。



① 表示したくない部門のチェックをはずすと部門比較損益計算書には表示されなくなります。

② 設定後「OK」ボタンをクリックします。

14. 粗利益／売上総利益の切替

粗利益三期比較グラフ

粗利益累計グラフ

売上高・粗利益累計グラフ

粗利益移動年計グラフ

移動年計総括グラフ

粗利益Zチャート

粗利益率推移グラフ

労働分配率推移グラフ

1人当たり粗利益グラフ

レーダーチャート

売上総利益と粗利益を切り替えてグラフを表示することができます。初期値は粗利益となります。



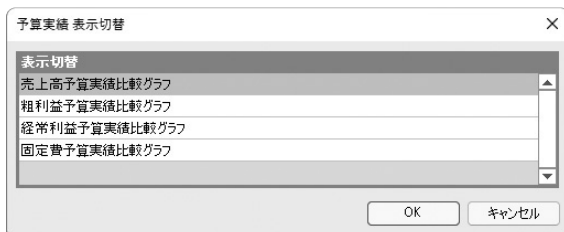
表示切替で選択し、「OK」ボタンをクリックします。

※粗利益＝売上高－変動費
(売上高及び変動費は、科目設定の変動損益項目でそれぞれ設定した科目の合計)

15. 予算実績表示切替

予算実績比較グラフ

予算実績比較グラフを「売上高」・「粗利益」・「経常利益」・「固定費」にグラフを切り替えて表示することができます。



16. 売上・利益の予算設定

売上高累計グラフ

粗利益累計グラフ

経常利益累計グラフ

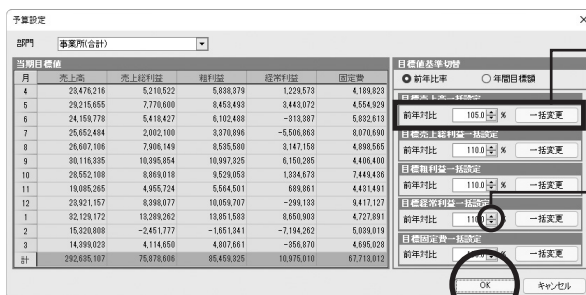
月次推移損益計算書(標準)

固定費累計グラフ

予算実績比較グラフ

当期目標値を入力することで予算比較のグラフが表示されます。当期目標値(予算)は、目標値基準切替で選択した「前年対比」・「年間目標額」に数値入力することで、過去データの前期の売上高・粗利益・経常利益を基に前年対比で当期の予算を作成することも可能です。また、ここで作成した数値は、売上高累計グラフ・粗利益累計グラフ・経常利益累計グラフ及び、月次推移損益計算書予測編集の未経過月設定の当期予算に反映されます。

【前年対比】



前年対比%を入力します。入力後に「一括変更」ボタンをクリックします。

スピンドルボタンを使用すると0.1%単位で増減します。

【年間目標額】



入力・設定が終了した後、「OK」ボタンをクリックします。

「年間目標額」を入力し、「配賦」ボタンをクリックします。目標額÷12で当期目標値に反映されます。また直接入力も可能です。

17. グラフ目盛の設定

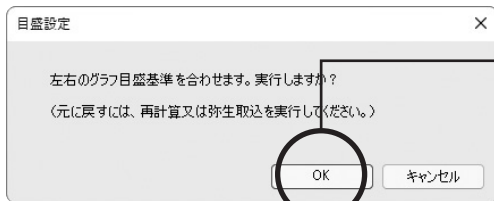
売上高累計グラフ

粗利益累計グラフ

経常利益累計グラフ

固定費累計グラフ

累計グラフの3期比較と予算実績対比のグラフの目盛基準を合わせることができます。



「OK」ボタンをクリックします。



注意 元に戻すには『データの再計算』を実行してください。

18. チャートの表示項目切替

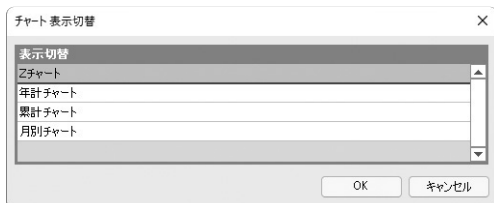
売上高Zチャート

粗利益Zチャート

経常利益Zチャート

固定費Zチャート

グラフを「Zチャート」・「年計チャート」・「累計チャート」・「月別チャート」に切り替えることが可能です。グラフの最終月は、月次決算の月(読込月)となります。



19. 1年に満たない月の表示設定

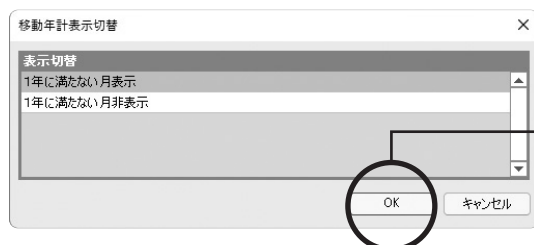
移動年計グラフ全5グラフ(標準版)

Zチャート全4グラフ(標準版)

移動年計グラフ全3グラフ(古田土会計版)

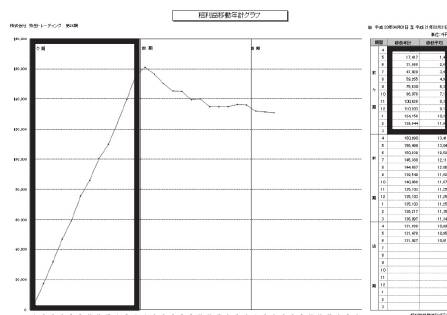
移動年計グラフの線は過去1年の合計値となるため、グラフを正しく表示するには「売上・利益の過去データ入力」で3期前の入力が必要となります。(P.13参照)

過去データの入力をしない場合、集計期間が1年に満たない月を初期値では「非表示」となっていますが、「1年に満たない月表示」に切り替える事ができます。

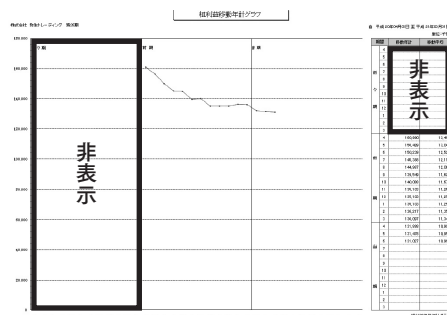


表示切替で選択し、「OK」ボタンをクリックします。

《1年に満たない月表示》



《1年に満たない月非表示》



移動年計グラフについて

会計年度に関係なく、常に当月から（読込月）起算して1年間の金額を表したグラフです。毎月決算していることと同じになるため、季節指数を折り込んだ趨勢を把握することができる計数管理方法です。（移動平均は、移動年計算÷12となります。）



20. 決算仕訳の計算設定

業績推移グラフ全19グラフ（標準版）

比較・推移グラフ全8グラフ（古田土会計版）

「比較グラフ・累計グラフ」、「年計グラフ・Zチャート」で過去データの決算仕訳を含むか含まないかを切り替えてグラフを表示することができます。決算仕訳の数値はグラフの最終月に含まれます。

表示切替

比較グラフ・累計グラフ 表示切替

決算仕訳を含む

決算仕訳を含まない

年計グラフ・Zチャート 表示切替

決算仕訳を含む

決算仕訳を含まない

※決算仕訳を含む含まないを切り替えます。

OK

キャンセル

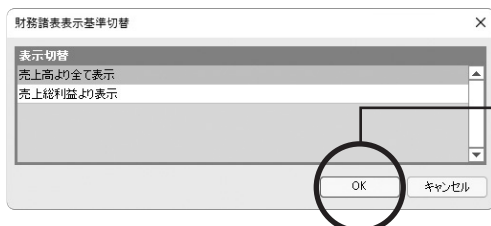
基本データ入力									
部門 事業組合計									
1期前	2期前	3期前	4期前	5期前	6期前	7期前	8期前	9期前	10期前
売上高	売上高	売上高	売上高	売上高	売上高	売上高	売上高	売上高	売上高
1	2,154,000	4,776,000	5,307,612	1,112,384	2,002,289	4,100,820	1,162,370		
2	27,824,439	7,064,182	7,604,994	8,100,865	2,662,005	4,654,826	2,012,787		
3	20,800,812	4,926,040	5,847,716	-284,897	2,971,620	5,910,818	1,182,175		
4	24,400,837	1,023,091	2,864,461	-4,006,139	6,274,237	6,370,898	-1,784,460		
5	25,940,101	7,187,400	7,793,618	2,881,853	2,498,208	4,900,865	-285,260		
6	28,622,224	8,458,776	9,997,568	9,591,160	2,973,937	4,400,400	7,444,960		
7	27,192,404	8,062,744	8,862,776	12,103,99	2,402,477	7,444,400	5,384,146		
8	16,176,443	4,066,244	6,856,637	6,821,146	2,401,111	4,451,491	2,088,210		
9	22,792,854	7,614,616	9,145,188	-271,899	7,854,576	8,617,127	5,687,915		
10	36,939,211	12,081,147	12,562,348	7,844,467	2,542,080	4,757,891	4,342,593		
11	4,630,246	-2,239,088	-1,593,216	-4,640,201	2,393,147	5,589,818	10,784,330		
12	27,312,105	4,749,581	4,379,421	324,427	2,418,019	4,900,820	-2,702,842		
13	0	-240,480	0	184,162	0	-1,594,062	0		
14	276,760,761	86,760,761	71,656,294	91,656,294	51,672,281	86,760,761	86,760,761		

21. 売上高の表示設定

財務諸表構成図

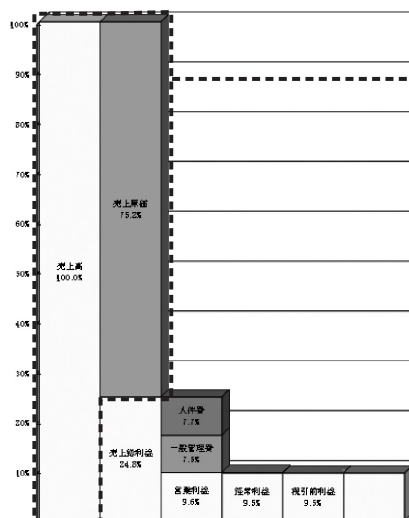
財務諸表比較図

売上総利益率が低い業種でも、グラフが見やすくなるように、売上及び売上原価を表示しないモードに切り替えることが可能です。

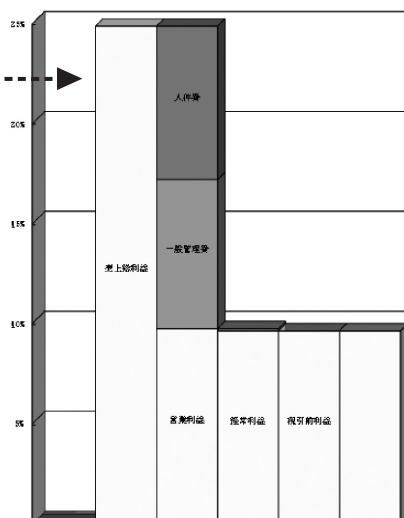


表示切替で選択し、「OK」ボタンをクリックします。

《売上より全て表示》



《売上総利益より表示》

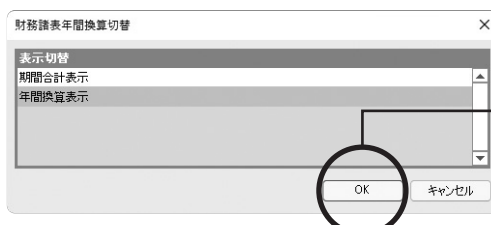


売上高及び売上原価が非表示となり売上総利益より表示されます。

22. 損益計算を1年間に換算表示

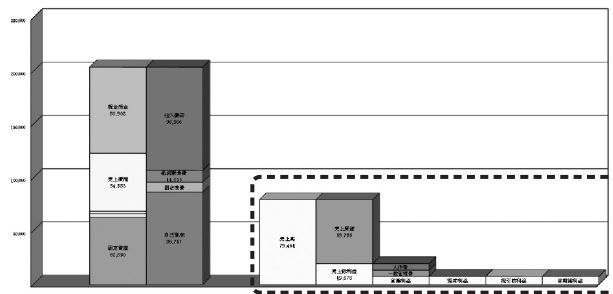
財務諸表比較図

貸借対照表と損益計算書を比較するために、損益計算書のグラフを「期間合計表示」から「年間換算表示」に切り替えることが可能です。

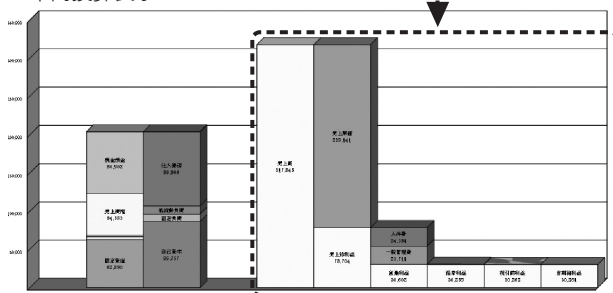


表示切替で「年間換算表示」を選択し「OK」ボタンをクリックします。

《期間合計表示》



《年間換算表示》



損益科目が年間に換算されます。

※年間換算のグラフの計算式
 $\text{損益金額} \div \text{経過月数} \times 12$

※回転率等が解りやすくなります。

23. 目標値の設定

損益分岐点分析グラフ

目標利益・固定費・限界利益率を設定することにより、目標利益に必要な売上高をシミュレーションします。当月迄累計・月平均・年間予測ごとにシミュレーションできます。目標値の初期値は当期と同じ数値となっています。

6月迄累計	月平均	期末予測
79,461	26,487	317,845
51,519	17,173	206,077
57,947	19,316	231,787
21,515	7,172	86,068
27.1%	27.1%	27.1%
13,949	4,650	55,796
7,565	2,522	30,262
35.2%	35.2%	35.2%

期末予測の数値＝月平均×12

基準データ：読込月迄累計 単位：千円

項目	当期	目標	差額
売上高	79,461	79,387	74
損益分岐点	51,519	51,472	47
変動費	57,947	57,873	73
限界利益	21,515	21,514	1
限界利益率	27.1%	27.1%	△0.0%
固定費	13,949	13,949	
経常利益	7,565	7,565	
売上高経常利益率	9.5%	9.5%	0.0%
損益分岐点率	64.8%	64.8%	0.0%
安全余裕率	35.2%	35.2%	0.0%

入力した目標値はシート右上の表に表示され、グラフに反映されます。

基準オプションで選択されたデータが表示されます。

損益分岐点目標値設定

部門 事業所(合計)

基準データ: ☒ 読込月迄累計 ☐ 当期平均 ☐ 期末予測

損益分岐点目標値

当期 (千円) 目標値 (千円)

売上高	79,461	79,387
変動費	57,947	57,873
限界利益	21,515	21,514
限界利益率	27.1%	27.1%
固定費	13,949	13,949
経常利益	7,565	7,565

☐ 再計算時に目標値を上書きしない

OK キャンセル

変動費がマイナス(期末棚卸一括計上)の場合は、限界利益率が表示されません。

24. 評価基準値の設定

レーダーチャート

比較レーダーチャートの基準値(最低値・目標値)を設定します。基準値設定の内容は、事業所データごとに保存されます。

注意 入力可能範囲を超えて入力はできません。特に「>」「<」に注意して入力してください。
最低値が最高値のどちらか先に入力した方を基準に考えます。

「粗利益/売上総利益の切替」で切り替えた内容によって、目標値の設定方法が以下のように切り替わります。

目標値の設定方法

表示切替	基準値の設定方法
粗利益	「目標値入力」ボタンをクリックし、「目標値設定」ダイアログにて収益性・生産性の「目標値」を、自動計算により設定することができます。また、各項目の基準値を手入力で設定することもできます。
売上総利益	各項目の基準値を手入力で設定します。

【粗利益】に表示切替した場合

「目標値入力」をクリックすると、レーダーチャート目標値設定ダイアログが表示されます。

単位に従って入力してください。
(%) (回)は小数点1桁まで入力可能です。

入力可能範囲に従って入力してください。

基準値を設定後、「OK」ボタンをクリックします。設定変更後の「レーダーチャート」が表示されます。

各項目の目標値を入力します。

目標値を入力後、「OK」ボタンをクリックします。

目標値の計算式一覧に従い、「基準値設定」画面に各項目の目標値が反映されます。

「初期値に戻す」で各項目の目標値を初期化することができます。

- ・粗利益率は、自社の期首から当月まで累計の粗利益率が初期値として設定されます。(小数点以下切り上げ)
- ・粗利益以外の項目は、固定の目標値が初期値として設定されます。

「レーダーチャート目標値設定」ダイアログでの目標値の計算式一覧

No.	分析項目	目標値の設定方法（計算式）	補足
収益性			
1	粗利益率	目標値設定ダイアログ入力値	
2	売上高経常利益率	粗利益率 [1] × 安全余裕率 [6]	※1
3	総資本経常利益率	目標値設定ダイアログ入力値	
4	自己資本当期純利益率	(売上高経常利益率 [2] × 0.6) × 総資本回転率 [5] ÷ 自己資本比率 [18]	※1, ※2
5	総資本回転率	総資本経常利益率 [3] ÷ 売上高経常利益率 [2]	
6	安全余裕率	目標値設定ダイアログ入力値	
生産性			
7	1人当たり月平均売上高	1人当たりの月平均粗利益 [9] ÷ 粗利益率 [1]	※3
8	1人当たり月平均経常利益	1人当たりの月平均粗利益 [9] × 安全余裕率 [6]	
9	1人当たり月平均粗利益	目標値設定ダイアログ入力値	
10	1人当たり人件費	目標値設定ダイアログ入力値	
11	労働分配率	1人当たり月平均人件費 [10] ÷ 1人当たり月平均粗利益 [9]	※1
12	設備投資効率	(総資本回転率 [5] × 粗利益率 [1]) ÷ (自己資本比率 [18] × 固定比率 [16])	
安全性			
13	現預金比率	レーダーチャート基準値設定画面にて入力	
14	流動比率	レーダーチャート基準値設定画面にて入力	
15	当座比率	レーダーチャート基準値設定画面にて入力	
16	固定比率	レーダーチャート基準値設定画面にて入力	
17	固定長期適合率	レーダーチャート基準値設定画面にて入力	
18	自己資本比率	目標値設定ダイアログ入力値	

※1 単位未満(パーセント[%]未満)の端数を切り上げて算出します。

※2 0.6は実効税率40%税額差引後の値。

※3 10万円未満切り上げて算出します。

【売上総利益】に表示切替した場合

レーダーチャート基準値設定

部門

分類項目	最低値	目標値	単位	入力可能範囲
収益性				
売上高総利益率	0.0	50.0	(%)	最低値(0-99) < 目標値(1-100)
売上高総利益率	0.0	10.0	(%)	最低値(0以上) < 目標値(1-999)
経営費経常利益率	0.0	20.0	(%)	最低値(0以上) < 目標値(1-999)
自己資本当期純利益率	0.0	30.0	(%)	最低値(0以上) < 目標値(1-999)
自己資本純利益率	0.0	2.0	(%)	最低値(0以上) < 目標値(1-999)
売上総利益経常利益率	0.0	20.0	(%)	最低値(0-99) < 目標値(1-100)
生産性				
1人当月平均売上高	0	2,400,000	(円)	最低値(0以上) < 目標値(1-9999万)
		240,000	(円)	最低値(0以上) < 目標値(1-9999万)
固定比率	200.0			
固定長期適合率	100.0	50.0	(%)	最低値(1-999) > 目標値(0以上)
自己資本比率	0.0	50.0	(%)	最低値(0-99) < 目標値(1-100)

初期値に開す

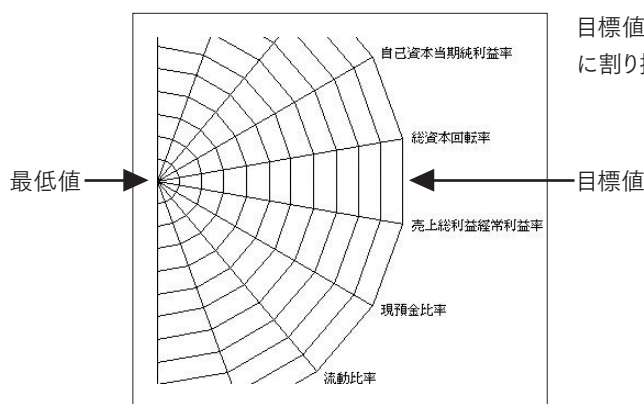
OK キャンセル

「粗利益/売上総利益の切替」で売上総利益に切り替えた場合、分析項目の「粗利益率」が「売上総利益」に、「安全余裕率」が「売上総利益経常利益率」に変わります。

※売上総利益に切り替えた場合は、
目標値を自動計算で設定することは
できません。

各項目を入力可能範囲に従って入力してください。

「初期値に戻す」をクリックすると、システムの初期値(固定値)が書き込まれます。



目標値と最低値の間を10段階の目盛に割り振り、グラフを表示します。

分析項目	計算式	分析値	単位	目標値	良否
利益率 売上総利益率	売上総利益÷売上高×100	20.8	%	50%以上	×
売上高経常利益率	経常利益÷売上高×100	6.6	%	20%以上	△
収益性 総資本経常利益率	経常利益÷総資本(総資産)×100	10.1	%	20%以上	△
自己資本当期純利益率	当期純利益÷自己資本×100	23.1	%	30%以上	△

良否	基準
◎	10
○	9以上10未満
△	5以上9未満
×	5未満

25. 表示基準の設定

1人当たりの粗利益グラフ

1人当たりの経常利益グラフ

1人当たりの粗利益グラフ・1人当たりの経常利益グラフでは、基準を「1日当たり」・「1時間当たり」に切り替えが可能です。

表示基準設定

部門 事業所(合計)

基準切替設定
☒ 1ヶ月あたり
☐ 1日あたり
☐ 1時間あたり

基準設定

月	人員	1ヶ月の稼働日数	1日の稼働時間	1ヶ月の稼働時間
4	17.5	22.00	8.00	176.00
5	17.5	22.00	8.00	176.00
6	17.5	22.00	8.00	176.00
7	17.5	22.00	8.00	176.00
8	17.5	22.00	8.00	176.00
9	17.5	22.00	8.00	176.00
10	17.5	22.00	8.00	176.00
11	17.5	22.00	8.00	176.00
12	17.5	22.00	8.00	176.00
1	17.5	22.00	8.00	176.00
2	17.5	22.00	8.00	176.00
3	17.5	22.00	8.00	176.00

1人当たりの1ヶ月目標額設定

粗利益目標額 1,000,000 経常利益目標額 300,000

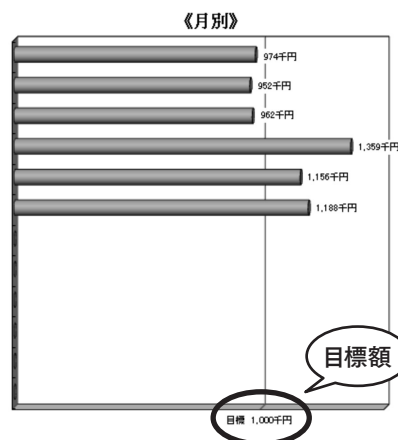
☒ 目標額を表示する

人員設定 OK キャンセル

表示したい基準を切り替えます。

各月の情報を入力します。1ヶ月の稼働時間は、1ヶ月の稼働日数×1日の稼働時間になります。

※初期値は、1ヶ月の稼働日数は22日、1日の稼働時間は8時間となっています。

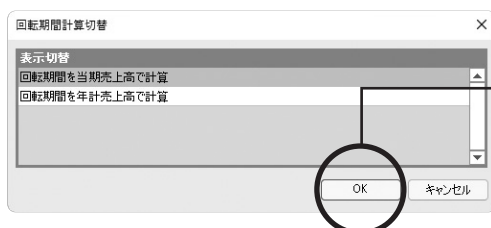


「粗利益目標額」・「経常利益目標額」を入力すると、『目標額を表示する』にチェックが入り、グラフに目標額が表示されます。

26. 基準売上高の設定

運転資金分析グラフ

運転資金分析グラフの売上債権回転期間・棚卸資産回転期間・仕入債務回転期間の回転期間を「当期売上高で計算」、もしくは「年計売上高で計算」に切り替えて表示することができます。



表示切替で選択し、「OK」ボタンをクリックします。

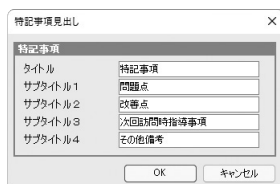
27. 項目名の設定

コメントシート

特記事項

<項目名の設定>

コメントシート・特記事項の見出し(タイトル)を編集することができます。



特記事項				
月別売上	月別売上比率	月別売上	月別売上比率	月別売上比率
4月				

<文書編集>

コメントシート・特記事項で文章入力する場合の機能です。コメントシート、特記事項の画面からは直接入力できません。



文章を入力する月を選択し、項目ごとに inputs します。入力後に「OK」ボタンをクリックします。



入力したものが反映されます。

月別売上	月別売上比率	月別売上	月別売上比率	月別売上比率
4月	今月の売上高は前年比に比べ...	販売数量を...	売上高...	予の倍増...

28. 科目の表示優先順

標準版・古田土会計版 財務諸表のキャッシュフロー計算書を除く全て

各財務諸表の科目表示優先順が設定できます。

選択した帳票によって、「標準科目の表示優先順」「変動損益科目の表示優先順」「古田土損益科目の表示優先順」のいずれかが表示されます。表示優先順についての詳細はP10 科目設定を参照してください。

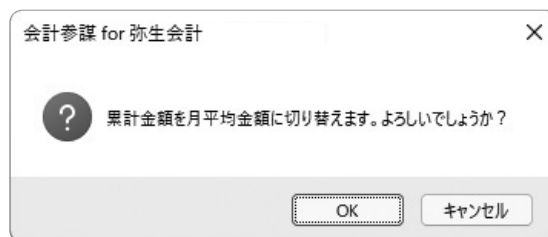
※詳細設定から優先順を設定した場合は、データの再計算が行われます。

29. 平均金額へ表示切替

変動損益計算図表

変動損益計算図表の累計金額を月平均金額に切り替えることができます。

「1人当たりへ表示切替」と「平均金額へ表示切替」を同時に使用することで、変動損益計算図表を1人当たりの月平均金額に切り替えることもできます。

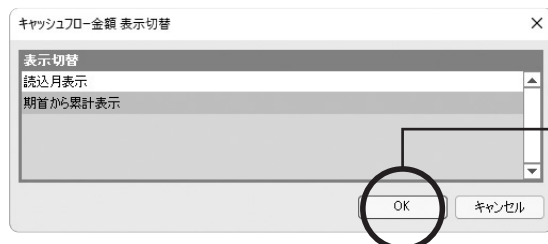


- 注意**
1. 編集された数値は他の帳票には反映されません。
 2. 元に戻す場合は「編集内容のクリア」をクリックしてください。

30. 読込月/期首から累計の表示切替

キャッシュフロー・資金バランス図

キャッシュフロー・資金バランス図に表示しているキャッシュ・フロー計算書に表示する金額を「読込月」と「期首から累計」を切り替えて表示することができます。初期値は「読込月」となります。

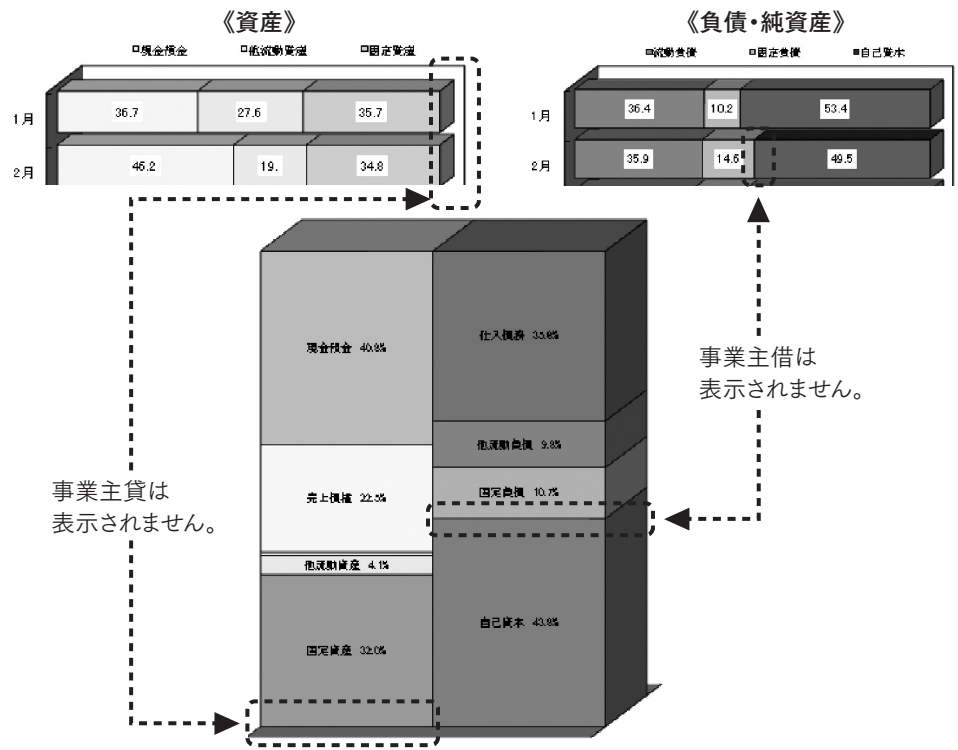


表示切替で選択し、「OK」ボタンをクリックします。

31. 個人データ(表示上)ポイント

個人は法人と科目体系が異なるため、『会計参謀』では、個人の勘定科目を法人の勘定科目に振り替えて表示します。貸借対照表で事業主勘定は自己資本の中を含めるため、グラフでは表示されません。

自己資本＝元入金－事業主貸＋事業主借＋青申特別控前所得

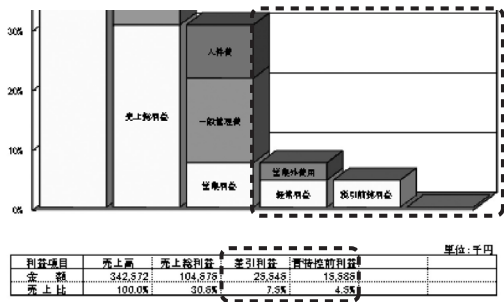


●損益計算書の営業外損益等が法人と異なるため、法人の勘定科目に振り替えて表示されます。

経常利益＝青申特別控前所得

営業利益＝繰入・繰戻前の差引金額

「個人/農業」「個人/不動産」は、表示名が変更になります。また、人件費・粗利益等の集計項目が存在しないため、表示されないグラフがあります。



個人ファイルの場合、表示名が変更されます。

科目設定で繰入額等に分析基礎集計項目の『人件費』を設定した場合、グラフで表示される差引利益が損益計算書と異なります。

4. 印刷

連続印刷の設定

帳票の連続印刷が可能です。また、ページ番号設定ダイアログでページ番号を設定すると帳票にページ番号を印刷することが可能です。

直接入力することも可能です。

印刷する帳票にチェックをします。

「全てON」・「全てOFF」で全帳票の一括設定ができます。「ページ番号のみON」でページ番号がある項目のみ印刷ができます。

ページ番号設定で設定された番号が表示されます。

ページ番号が作成されます。設定後に「OK」ボタンをクリックします。

※報告書表紙は番号を入力することができません。

「連続付番(全て)」全帳票にページ番号を作成します。「連続付番(チェックのみ)」チェックされている帳票のみページ番号を作成します。

☐ 部門切替時ページ番号の表示・印刷を行わない

☐ ページ番号を大きくする。

●連続印刷の印刷順について

ページ番号が設定されていない場合は、ダイアログの表示順に印刷されます。ページ番号が設定されている場合は、ページ番号順に印刷されますが、番号が入力されていない帳票がある場合は、番号が入力されていない帳票が先に印刷されます。また、同じ番号を入力している帳票は、ダイアログ表示の順で印刷されます。

第4章 ファイル操作

1. データファイルとデータバックアップファイルの場所

1. 初期状態のデータファイルの保存場所

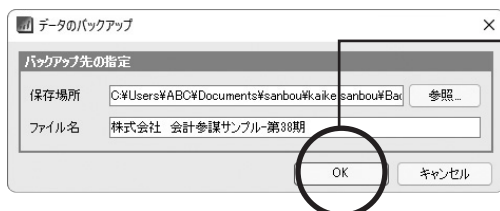
パブリックのドキュメント(Documents)¥sanbou¥kaikeisanbou25

2. 初期状態のバックアップファイルの保存場所

現在ログオンしているユーザーのドキュメント(Documents)¥sanbou¥kaikeisanbou25¥Backup

2. バックアップファイルの作成

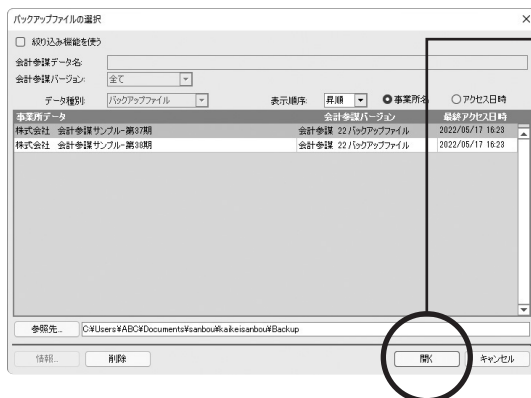
事業所データファイルごとにバックアップファイルを作成します。「ファイル」より「バックアップ」をクリックします。「データのバックアップ」のダイアログが表示されます。



「参照」ボタンで保存場所を選択します。
「OK」ボタンをクリックします。
「データのバックアップは正常に終了しました」で完了です。

3. バックアップファイルの復元

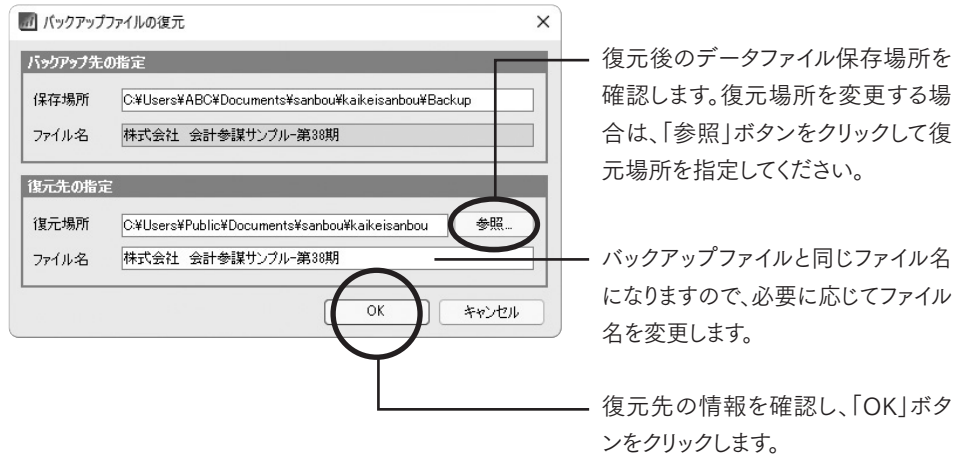
「ファイル」より「バックアップファイルの復元」をクリックします。「ファイル」メニューの「開く」で表示する「事業所データの選択」画面で、「データ種別」で「バックアップファイル」を選択しても同様です。



バックアップファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

※目的のバックアップファイルが表示されない場合は、「参照先」ボタンでファイルの保存場所を選択してください。

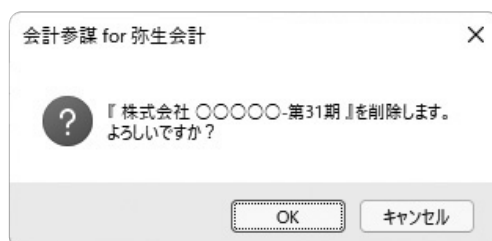
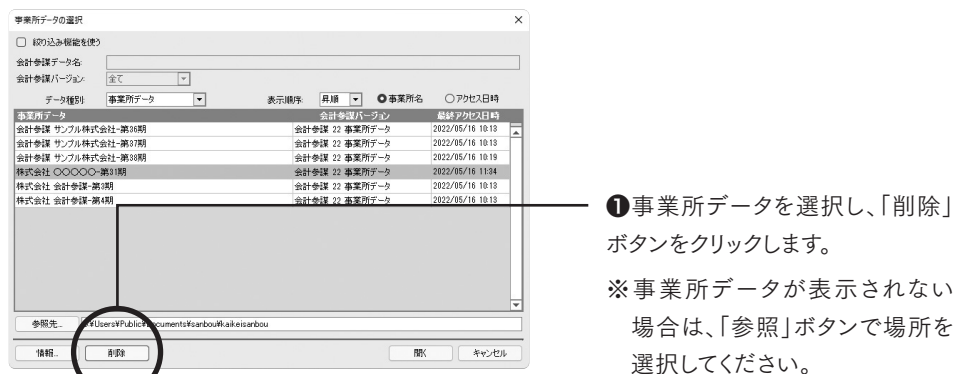
※旧バージョンのバックアップファイルを会計参謀27のデータファイルにコンバート復元することができます。(詳細はP.16 旧製品のデータを開くを参照してください。)



4. 事業所データの削除

- 注意**
1. バックアップファイルを作成していない場合は、一度削除したデータは復旧することはできません。
 2. 不要になった事業所データは削除することができます。ただし、現在開いているファイルは削除できないので、他のファイルを選択してから削除してください。

「ファイル」より「開く」をクリックすると、「事業所データ」のダイアログが表示されます。



第5章 Excelファイル出力

Excel出力機能

1. 事業所データのExcelへの保存

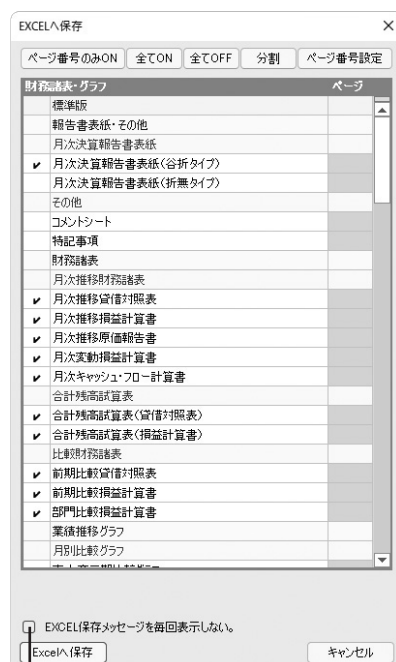
『会計参謀』で作成した帳票は、Excelブックに保存できます。

Excel保存後は、保護されたシート以外は自由に編集ができるほか、PDFへの加工も可能です。

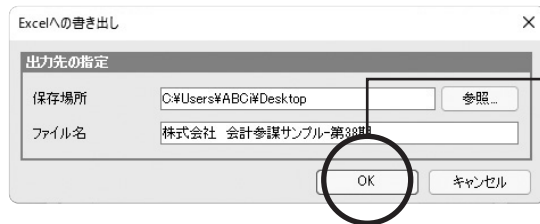
注意 Excel保存後は会計参謀のデータとは切り離される為、Excel上で編集した内容は会計参謀の事業所データには反映されません。



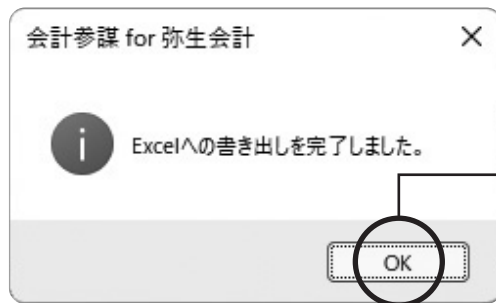
保存したい帳票をクリックします。
帳票設定内容を確認し、
「Excelへ保存」をクリックします。



ファイル切替・終了時及び新規作成時にExcel保存メッセージを表示させたくない場合は、「Excel保存メッセージを毎回表示しない」にチェックを入れてください。



保存場所を「参照」ボタンで設定し、「ファイル名」を入力し、「OK」ボタンをクリックします。



「OK」ボタンをクリックしたら完了です。

●保存されたExcelシートは、自由に編集できますが、グラフ等編集できない帳票もあります。

※『会計参謀』の表示画面で、「Excelへコピー(p19)」が使えない帳票は編集できません。

2. 過去データのエクスポート

データをCSV形式でエクスポートされます。



「データのエクスポート」をクリックすると、「出力先の指定」のダイアログが表示されます。

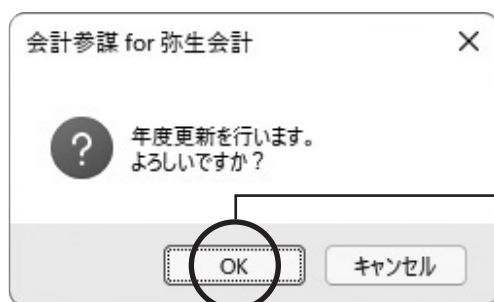
保存場所を指定して「OK」をクリックするとエクスポートが完了します。

第6章 次年度更新

1. 年度更新

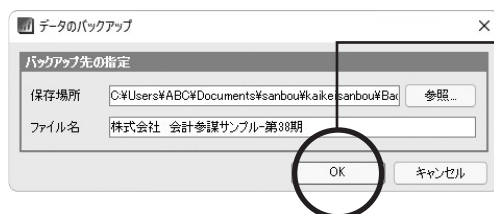
『弥生会計』データファイルの繰越処理を行った場合、『会計参謀』の事業所データも繰越処理が必要です。年度更新をすることで、過去データなどの初期設定の手間が省けます。

注意 『弥生会計』データファイルの会計期間を短縮して繰越処理を行った場合、『会計参謀』では年度更新はできません。新規ファイル作成となりますのでご注意ください。



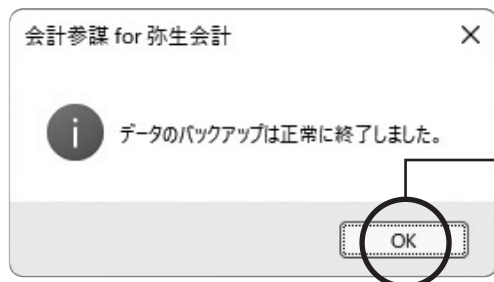
「ファイル」より「年度更新」をクリックします。

「OK」ボタンをクリックします。



「データのバックアップ」作成画面がでたら、「OK」ボタンをクリックします。

※保存場所を変更する場合は、「参照」ボタンで保存場所を変更してください。

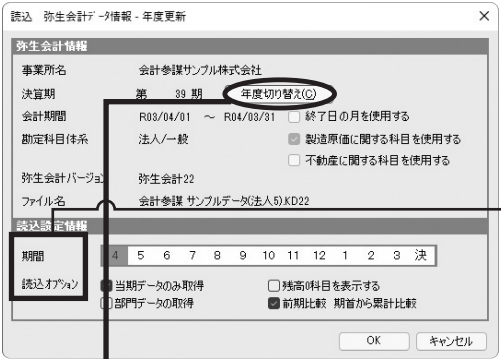


「OK」ボタンをクリックします。



繰越後の『弥生会計』データを選択します。

※『弥生会計』データが表示されない場合は、「参照先」ボタンで事業所データの場所を選択してください。



「期間・読込オプション」を設定し、「OK」ボタンをクリックします。



年度切り替えで処理年度を確認し、「OK」ボタンをクリックします。

事業所設定

事業所情報

会社名: 会計参謀サンプル株式会社

決算期: 第 38 期

会計期間: R03/04/01 ~ R04/03/31

加算科目オプション: ☐ 終了日の月を使用する

科目体系

加算科目体系: 法人/一般

加算科目オプション: ☒ 製造原価に関する科目を使用する ☐ 不動産に関する科目を使用する

人員数

月数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
人員数	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17

OK キャンセル

人員数設定を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

新規事業所データ登録

事業所データ保存場所

保存場所: C:\Users\Public\Documents\sanbou\kaikeisai 参照...

事業所データ名: 会計参謀サンプル株式会社-第38期

OK キャンセル

「OK」ボタンをクリックします。
画面が終了したら完了です。

2. 選択ファイルの変更(『弥生会計』データファイル)

『弥生会計』のバージョンアップ時に、『弥生会計』のデータファイルを新しいバージョンにコンバートした後は、ファイルの場所と拡張子を変更されるため、『弥生会計』データの再指定が必要となります。

「弥生会計の事業所データ読込」をクリックすると、ダイアログが表示されます。

読込データ選択

事業所情報

会社名: 会計参謀サンプル株式会社

決算期: 第 38 期

会計期間: R02/04/01 ~ R03/03/31

前回読込期間: R03/03/01 ~ R03/03/31

読込データの選択

読込方法を選択してください。

☐ 前回選択した弥生会計のデータを読み込む(B)

☒ 弥生会計のデータを再度選択して読み込む(L)

OK キャンセル

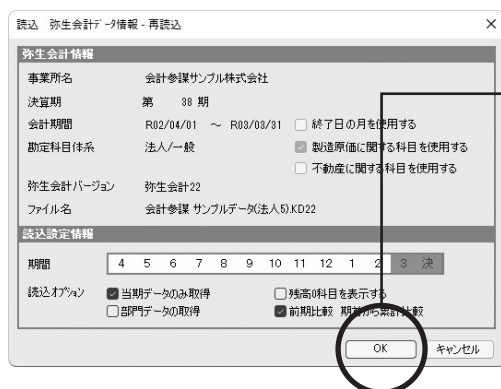
「弥生会計のデータを再度選択して読み込む」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



①『弥生会計』データを選択します。

②「開く」ボタンをクリックします。

※『弥生会計』データが表示されない場合は、「参照先」ボタンよりデータの場所を変更してください。



③読込オプションを設定して、「OK」ボタンをクリックします。

④画面が終了したら完了です。

※『弥生会計』データファイルは、会計期間・決算期科目体系が同一のものにしか再指定できません。

第7章 古田土会計版の設定

法人および個人／一般のみ対応。個人（農業・不動産）データは、古田土会計版メニューが表示されません。

帳票設定

1. 目盛調整

年計グラフ(売上・粗利益・固定費)

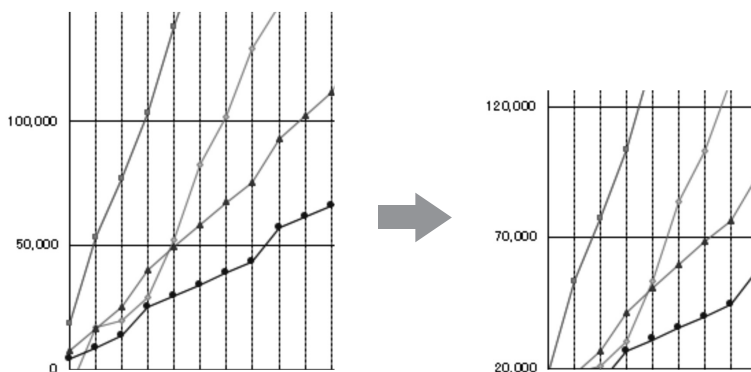
年計グラフ(売上・粗利益・固定費)の目盛の最小値・最大値を入力することでグラフの表示範囲を調整できます。「初期値に戻す」をクリックすると元に戻すことができます。

年計グラフ目盛設定

部門 事業所(合計)

分析項目	最低値	最高値	単位	入力可能範囲
売上高	270,000,000	285,000,000	(円)	最低値(0以上) < 最高値(1-999999百万)
粗利益・固定費・人件費	0	170,000,000	(円)	最低値(0以上) < 最高値(1-999999百万)

初期値に戻す OK キャンセル



3. 「キャッシュフロー計算書の手書切替」もしくは「資金別貸借対照表の手書切替」

キャッシュフロー計算書

NEW資金別貸借対照表

表示切替と同様に、手書きの部分を非表示にすることが可能です。

キャッシュフロー計算書(期間) 手書切替

表示切替
すべての金額表示
手書き部分非表示

OK キャンセル

表示形式を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

《キャッシュフロー計算書》

※ 〇〇〇 内は、非表示となります。

キャッシュフロー計算書(期間) 手書切替

表示切替
すべての金額表示
手書き部分非表示

OK キャンセル

《NEW資金別貸借対照表》

NEW資金別貸借対照表

表示切替
すべての金額表示
手書き部分非表示

OK キャンセル

4. 資金別貸借対照表の差額表示切替

資金別貸借対照表

資金別貸借対照表の前年同月との差額を表示します。

資金別貸借対照表 差額表示設定

全てON 全てOFF

資金別貸借対照表

根拠装置等
土地
無形固定資産
投資等
繰延資産
減価償却累計額
計
【売上仕入資金の部】
受取手形
売掛金
前受金
未成工事支出金
計
【流動資産の部】
未収入金
有価証券
仮払金
立替金
短期貸付金
その他流動資産
仮払税金等
仮払消費税
計

社債・転換社債
長期未払金
その他固定資産
長期負債連関計
資本金
資本準備金等
計
支払手形
買掛金
前渡金
裏書手形
計
短期借入金
割引手形
短期間連資金額計
未払金
預り金
未払費用
未払法人税等
仮受(未払)消費税
仮受金
その他流動負債
超短期間連資金額計
計

OK キャンセル

差額表示したい科目にチェックを入れ「OK」ボタンをクリックします。

売上仕入資金の部			
受取手形	8.1	支払手形	13.9
売掛金	54.9	買掛金	244.7
前受金	0.0	前渡金	0.0
未成工事支出金	0.0	裏書手形	0.0
計	63.0	計	258.5

科目の差額が表示されます。

5. 「キャッシュフロー計算書のマーカー表示設定」もしくは「資金別貸借対照表のマーカー表示設定」

キャッシュフロー計算書

資金別貸借対照表

キャッシュフロー計算書、資金別貸借対照表の項目にマーカーをつけることができます。

※マーカーの色は、「帳票カラー設定」で選択した、「カラー色1」となります。

《キャッシュフロー計算書》

キャッシュフロー計算書 マーカー表示設定

全てON 全てOFF

キャッシュフロー計算書

☐	営業活動によるキャッシュフロー
☐	減価償却累計額
☐	賞与引当金
☐	年払引当金等
☐	固定資産売却・除却損益等
☐	その他(賞罰損失等)
☒	受取手形+売掛金の増減
☐	前受金等の増減
☐	支払手形+買掛金の増減
☐	前渡金等の増減
☐	棚卸資産の増減
☐	裏書手形の増減
☐	未払金+未払費用の増減
☐	未払法人税等の増減
☐	未払消費税の増減
☐	販売消費税-仮払消費税
☐	その他資産の増減
☐	その他負債の増減
☐	投資活動によるキャッシュフロー
☐	売却可能有価証券の購入及び売却
☐	有形固定資産の購入及び売却等
☐	保険積立金の購入及び解約等
☐	その他の増減
☐	財務活動によるキャッシュフロー
☐	割引手形の増減
☐	短期借入金等の増減

OK キャンセル

《資金別貸借対照表》

資金別貸借対照表 マーカー表示設定

全てON 全てOFF

資金別貸借対照表

【損益資金の部】	
売上原価	売上高
販売管理費	営業外収益
営業外費用	特別利益
特別損失	(税引)前当期利益
法人税等	
	(当期利益)
前払費用	前期繰越利益
長期前払費用	利益準備金
不渡手形	その他の利益剰余金
	前受収益
	引当金
計	計
【固定資産の部】	
棚卸資産	長期借入金
建物・構築物	役員借入金
機械装置等	社債・転換社債
土地	長期未払金
無形固定資産	その他固定資産
投資等	長期負債調達額計
繰延資産	資本金
減価償却累計額	資本準備金等
計	計
【売上仕入資金の部】	
受取手形	支払手形
売掛金	買掛金

OK キャンセル

マーカーを入れた項目にチェックを入れます。設定後「OK」ボタンをクリックします。

6. 売上科目の選択

売上高科目別三期比較グラフ

売上高科目別三期比較グラフで集計したい売上科目の選択ができます。集計したい科目にチェックをして、「OK」ボタンをクリックします。

7. 部門切替

[月次推移損益計算書](#)[三期比較損益計算書](#)[三期比較グラフ](#)[年計グラフ\(売上・粗利益・固定費\)](#)[経常利益年計グラフ](#)[未来会計図表](#)[NEW未来会計図表](#)[合計残高試算表\(損益計算書\)](#)

古田土会計帳票の部門切替では、他の帳票も同時に部門を切り替えることが可能です。

◆月次推移損益計算書または三期比較損益計算書で部門切替を行った場合

部門を選択後、確認メッセージが表示されます。「はい」を選択すると、メッセージに記載されている帳票が同時に部門切り替えされます。「いいえ」を選択すると、表示帳票のみ選択した部門に切り替わります。

◆三期比較グラフ、年計グラフ(売上・粗利益・固定費)、経常利益年計グラフ、未来会計図表、NEW未来会計図表で部門切替を行った場合

メッセージに記載されている帳票が同時に部門切り替えされます。「いいえ」を選択すると、三期比較グラフ、年計グラフ(売上・粗利益・固定費)、経常利益年計グラフ、未来会計図表、NEW未来会計図表が選択した部門に切り替わります。

◆合計残高試算表(損益計算書)で部門切替を行った場合

全科目型財務諸表の合計残高試算表(損益計算書)を同時に選択した部門に切り替えることができます。※月次推移損益計算書などは同時に切り替わりません。

8. 部門選択

月次推移損益計算書

三期比較損益計算書

部門別損益計算書(期間)・(累計)

部門別損益計算書に表示したい部門の選択ができます。事業所(合計)は選択された部門の合計ではなく、全社合計額が表示されます。



古田士会計版の月次推移損益計算書、三期比較損益計算書に「選択部門を表示する」にチェックを入れると、月次推移損益計算書、三期比較損益計算書にて選択した部門が一括表示されます。

「古田士会計版の月次推移損益計算書、三期比較損益計算書に事業所(合計)を表示しない」にチェックを入れると、事業所(合計)が月次推移損益計算書と三期比較損益計算書に表示されません。(部門別損益計算書では、事業所(合計)を外すことはできません。)

「部門切替」は選択した部門のみ表示ですが、「部門選択」ではチェックされた部門が画面上に表示されますので部門別帳票の一括印刷も可能です。



注意

「古田士会計版の月次推移損益計算書、三期比較損益計算書に選択部門を表示する」にチェックを入れると、表示されるまでに時間が掛かる場合があります。

※選択した部門数が多いほど処理・表示に時間が掛かるので、必要以上に選択しないでください。

[選択部門を一括表示する]のチェックを付けた状態で会計参謀を終了すると、次回データを開いた場合一括表示のチェックは残った状態ですが、帳票に選択部門は一括表示されていません。再度選択部門を一括表示する場合は、データ起動後に部門選択や部門配賦、弥生会計データ読み込みやデータの再計算などの操作を行うと、選択部門が一括表示されます。

※部門一括表示は時間が掛かる場合があるため、起動時には一括表示を行っていません。

9. 部門配賦

- 月次推移損益計算書
- 三期比較損益計算書
- 部門別損益計算書(期間)・(累計)
- 合計残高試算表(損益計算書)

部門配賦

開じる

配賦実行

配賦クリア

人員取込

エクスポート

共通部門

配賦基準

☒ 人員 ☐ 人件費 ☐ 粗利益 ☐ 割合(%)

表示切替

☒ 実数 ☐ 割合(%)

☒ 2ヶ月目以降を1ヶ月目と同じにする

当期

前期

前々期

部門	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
卸事業部	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ショップ	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
工房	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
輸入品事業部	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0

弥生会計データ取込時に「部門データの取得」にチェックを入れて読み込みを行った場合、事業所(共通)など共通部門の部門損益を部門共通費として各部門に配賦することができます。配賦元となる共通部門と配賦先の配賦基準を設定し、「配賦実行」ボタンをクリックします。部門選択(p51参照)ダイアログが表示されますので、配賦結果を表示する部門を選択し「OK」ボタンをクリックします。

※部門配賦実行後は、経常損益行が部門経常損益に変わり部門共通費行が追加されます。

- ・配賦実行 …………… 事業所(共通)データを各部門に配賦します。
- ・配賦クリア…………… 配賦データをクリアします。
- ・人員取込 …………… 人員設定画面で入力した人員の取込を行います。
- ・エクスポート…………… 配賦割合データをCSV形式でエクスポートします。
- ・共通部門 …………… 事業所(共通)データ+選択した部門を各部門に配布します。

〈配賦基準〉

- ・人員 …………… 人員設定で入力した人員の割合で配賦します。
- ・人件費 …………… 人件費の割合で配賦します。
- ・粗利益 …………… 粗利益の割合で配賦します。
- ・割合 …………… 任意の割合で配賦します。

一般管理費計	877
営業損益	6,601
営業外収益合計	
営業外費用合計	
固定費計	877
経常損益	6,601
前期経常損益	

(部門配賦実行前)

一般管理費計	877
営業損益	6,601
営業外収益合計	
営業外費用合計	
固定費計	877
部門経常損益	6,601
部門共通費	2,685
部門利益	3,915
前期部門利益	

(部門配賦実行後)

【共通部門の使用方法】

クリックした部門を事業所(共通)データに合算して配賦します。チェックした部門は、配賦先の部門から外れます。

※共通部門選択は、部門の階層が1階層の場合のみ対応しています。2階層以上ある場合は、弥生会計データを1階層に変更後、読み込みを行ってください。

ここでは、「ショップ」をクリックします。「ショップ」の部門利益を部門共通費に振替、事業所(共通)の部門共通費に合算して、部門配賦を行います。
※事業所(共通)のチェックを外すことはできません。



部門	4	5	6	7
卸事業部	5.0	5.0	5.0	5.0
工房	4.0	4.0	4.0	4.0
輸入品事業部	3.0	3.0	3.0	3.0

10. 三期比較損益計算書の差額の表示切替

三期比較損益計算書

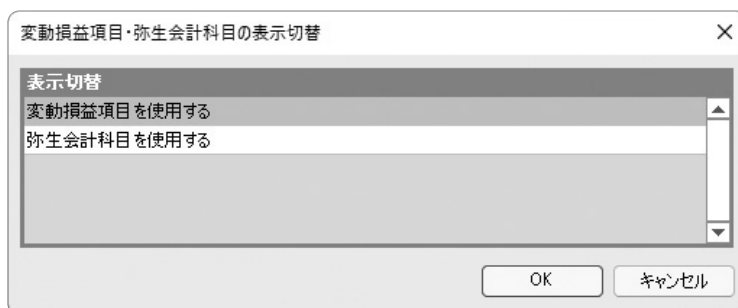
三期比較損益計算書の差額欄の表示を「前同期月累計(B)－前々同期月累計(A)」と「当月までの累計(C)－前々同期月累計(A)」いずれかに切り替えて表示することができます。

11. 合計残高試算表(損益計算書)の 変動損益項目・弥生会計科目の表示切替

合計残高試算表(損益計算書)

合計残高試算表(損益計算書)の表示形式を、変動損益計算書と弥生会計科目を使用した通常の損益計算書に切り替えることができます。

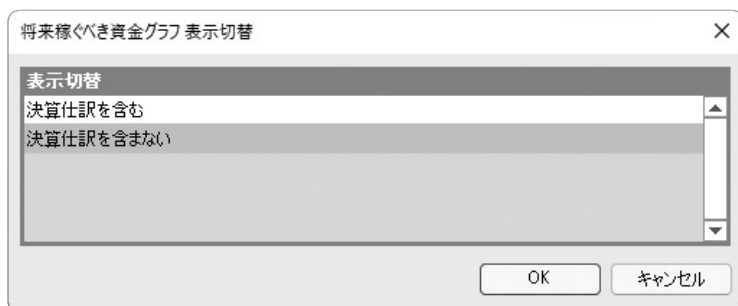
※「弥生会計科目を使用する」に切り替えた場合、科目の優先順は[古田土損益科目]ではなく[標準科目]の優先順によって科目の並び順が設定され、詳細設定のMENUが標準科目の表示優先順に変わります。



12. 資金力アップグラフの決算仕訳の計算設定

資金力アップグラフ

「資金力アップグラフ」で各会計年度の最終月に表示される残高を、決算仕訳を含むか含まないかを切り替えてグラフを表示することができます。初期値は「決算仕訳を含まない」となっております。



13. 現預金・借入金の過去データ入力

資金力アップグラフ

『弥生会計』データに過去データが入っていない場合に入力します。入力した数値は資金力アップグラフに反映されます。(導入次年度からは、年度更新を行うことで残高を自動で繰り越します。)

現預金・借入金データ入力

部門 事業所(合計)

1期前 2期前

月	現金・預金	短期借入金	長期借入金
4	424,518,609	4,000,000	9,727,930
5	425,839,266	3,500,000	9,535,790
6	426,308,869	3,000,000	9,343,218
7	423,826,373	2,500,000	9,150,212
8	422,837,683	2,000,000	8,956,772
9	429,608,768	1,500,000	8,762,897
10	434,248,603	1,000,000	8,568,586
11	436,143,072	500,000	8,373,837
12	447,034,900	6,000,000	8,178,650
1	450,681,867	5,500,000	7,983,024
2	460,730,131	5,000,000	7,786,958
3	457,250,582	4,500,000	7,590,451
決	457,250,582	4,500,000	7,590,451

データのエクスポート OK キャンセル

現金預金・短期借入金・長期借入金
＝科目設定の資金総括区分で設定した科目の合計。

・年度の最終月(左図の「3月」)には、決算仕訳を含まない残高を入力します。

・「決」には、決算仕訳を含めた決算月の残高を入力します。

入力完了後に「OK」ボタンをクリックしてください。

14. 古田士CF調整金額の入力

キャッシュフロー計算書

月次キャッシュ・フロー計算書

キャッシュフロー計算書で集計された金額を調整する場合は、「調整金額」の欄に入力します。
集計金額から調整金額を減算する場合は「－」を付けて入力します。

古田士キャッシュ・フロー計算調整

開じる 横分割 縦分割 Qズーム

部門 事業所(合計)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	決算
キャッシュフロー項目													
--- 投資活動によるキャッシュフロー ---													
有価証券の購入及び売却						0							0
有形固定資産の購入及び売却等						0							0
保険積立金の購入及び解約等						0							0
その他の増減(補助金収入 他)						0							0
投資活動に使用した純キャッシュ						0							0
フリーキャッシュフロー(純現金収支)						1,068,110							1,068,110
--- 財務活動によるキャッシュフロー ---													
割引手形の増減						0							0
短期借入金の増減						-500,000							-400,000
長期借入金の増加						0							0
長期借入金の返済						-196,949							-296,949
役員借入金等の増減						0							0
配当金他利益処分・資本等の増減						0							0
その他固定負債の増減						0							0
貸付金の増減						0							0
その他の増減						0							0
財務活動に使用した純キャッシュ						-696,949							-696,949
現預金の増減額						371,161							371,161

月毎に、現預金の増減額が「0」となるよう、項目間で
プラスとマイナスの調整金額を入力してください。

15. 古田土会計版推奨設定

古田土会計版推奨設定では、古田土会計事務所で実際に使用している設定に一括で変更することが可能です。古田土会計事務所と同じ設定でご利用になりたい場合は、設定内容を確認後、「OK」ボタンをクリックしてください。

※推奨設定に変更した項目を一括で変更前の設定に戻すことはできません。個別に設定を変更してください。「システム項目」は、設定またはファイルより設定を変更することができます。「帳票・グラフ項目」は、該当する帳票を選択し、詳細設定より設定を変更することができます。



※推奨ページ番号設定の「ガイドON」をクリックすると、設定するページ番号の内容が確認できます。

〈資料1〉科目設定集計項目リスト

『弥生会計』の勘定科目に設定する各種帳票の集計項目は下記の内容となっています。データ作成時に自動で設定されますが、事業所の内容により設定を変更してください。

キャッシュフロー計算書	資金別貸借対照表 ※	変動損益計算書	古田玉キャッシュフロー計算書 ※
[現金・預金]区分以外での設定項目	貸借対照表科目での設定項目	変動損益区分	貸借対照表科目での設定項目
-	-	-	-
---営業活動によるキャッシュ・フロー---	差引現金預金	売上	---営業活動によるキャッシュ・フロー---
減価償却費	固定性預金	人件費	賞与引当金繰入
引当金増減額	受取手形	費用	年払引当金等繰入
受取利息・受取配当金	売掛金	経費	他引当金等の調整
支払利息	前払費用	金利	受手+売掛の増減
有価証券売却損益	有価証券	戦略費	前受金等の増減
固定資産売却損益	棚卸資産		支手+買掛の増減
固定資産除却損	前受金		前渡金等の増減
その他非資金項目の増減	立替金		棚卸資産の増減
売上債権の増減額	未収入金		裏書手形の増減
棚卸資産の増減額	短期貸付金	建設仮勘定	未払+未費の増減
その他資産の増減額	仮払金	短期借入金	未払法人税等増減
仕入債務の増減額	仮払税金等	長期借入金	未払消費税の増減
割引手形・裏書手形の増減	仮払消費税	人件費	仮受消費-仮払消費
未払金・未払費用の増減	その他流動資産		その他資産の増減
未払法人税等の増減	建物・構築物		その他負債の増減
未払消費税等の増減	機械装置等		---投資活動によるキャッシュ・フロー---
その他負債の増減額	減価償却累計額		売可有価証券購入
役員賞与の支払額	土地		有形固定資産購入
利息及び配当金の受取額	無形固定資産		保険積立金の購入
利息の支払額	投資等		投資活動他の増減
法人税等の支払額	長期前払費用		---財務活動によるキャッシュ・フロー---
---投資活動によるキャッシュ・フロー---	繰延資産		割引手形の増減
固定資産等の売却	未成工事支出金		短期借入金の増減
有価証券売却による収入	支払手形		長期借入金の増減
保険積立金による収入	買掛金		役員借入金等
貸付金の回収による収入	短期借入金		配当金他利益処分
その他投資等の収入	未払金		固負・資本等増減
固定資産等の取得	未払法人税等		貸付金の増減
有価証券取得による支出	仮受(未払)消費税		財務活動他の増減
保険積立金による支出	未払費用		--- 現金・預金 ---
貸付金による支出	預り金		現金及び預金
その他投資等の支出	仮受金		損益計算書科目での設定項目
---財務活動によるキャッシュ・フロー---	前渡金		-
短期借入れによる収入	前受収益		減価償却費
長期借入れによる収入	割引手形		有価証券売却益
株式発行による収入	裏書手形		有価証券売却損
その他財務活動による収入	引当金		有価証券評価損
短期借入金の返済による支出	その他流動負債		固定資産売却益
長期借入金の返済による支出	長期借入金		固定資産売却損
配当金の支払額	長期未払金		固定資産除却損
その他財務活動による支出	役員借入金		保険積立等利益
[現金・預金]区分での設定項目	社債・転換社債		保険積立等損失
-	その他固定資金		その他利益
現金及び現金同等物	資本金		その他損失
定期預金等の預入	資本準備金		補助金収入
定期預金等の払戻	利益準備金		棚卸評価損
	その他の利益剰余金		
	前期繰越利益		

※印のある科目は古田玉会計版のみの機能です。

〈資料2〉計算基礎項目一覧表

	No	計算基礎項目	データ集計方法
貸借対照表	1	経過月数(1)	読込データ選択
	2	人員	事業所設定ダイアログ入力値
	3	1ヶ月の稼働日数	人員設定ダイアログ入力値
	4	1日の稼働時間	〃
	5	現金預金	『弥生会計』の集計項目
	6	売上債権	〃
	7	有価証券	〃
	8	棚卸資産	〃
	9	他流動資産	〃
	10	流動資産合計	$= 5+6+7+8+9$
	11	有形固定資産	『弥生会計』の集計項目
	12	固定資産	〃
	13	繰延資産	〃
	14	総資産合計	$= 10+12+13$
	15	仕入債務	『弥生会計』の集計項目
	16	他流動負債	〃
	17	(短期 借入金)	分析基礎集計項目より
	18	流動負債合計	$= 15+16$
	19	固定負債	『弥生会計』の集計項目
	20	(長期借入金)	分析基礎集計項目より
	21	他人資本	$= 18+19$
	22	自己資本	『弥生会計』の集計項目
	23	総資本合計	$= 18+19+22$
	24	純資産(法人)	『弥生会計』の集計項目
	25	部門	〃
	26	事業主借	〃
	27	資本合計(個人)	〃
	28	事業主貸	〃
損益計算	29	売上高	〃
	30	売上原価	〃
	31	売上総利益	〃
	32	人件費	分析基礎集計項目より
	33	その他販管費	『弥生会計』の「販売管理費」-32
	34	営業利益	『弥生会計』の集計項目
	35	営業外収益	〃
	36	営業外費用	〃
	37	経常利益	〃
	38	特別利益	〃
	39	特別損失	〃
	40	税引前純利益	〃
	41	法人税等	$= 40-42$
変動損益	42	当期純利益	『弥生会計』の集計項目
	43	売上高	変動損益項目より
	44	変動費	〃
	45	粗利益	$= 43-44$
	46	人件費	変動損益項目より
	47	その他経費	〃
	48	金利	〃
	49	戦略費	〃
	50	固定費	$= 46+47+48+49$
	51	経常利益	$= 45-50$
分析基礎集計項目	52	建設仮勘定	分析基礎集計項目より
	53	短期借入金	〃
	54	長期借入金	〃
	55	人件費	〃

<資料3> 分析項目計算式一覧

※(数字)は、P59の計算基礎項目一覧表Noとなります。

分析項目		計 算 式
財務諸表構成図		
現金預金比率	$\text{現金預金(5)} \div \text{総資産合計(14)} \times 100$	
流動比率	$(\text{現金預金(5)} + \text{売上債権(6)} + \text{有価証券(7)} + \text{棚卸資産(8)} + \text{他流動資産(9)}) \div (\text{仕入債務(15)} + \text{他流動負債(16)}) \times 100$	
当座比率	$(\text{現金預金(5)} + \text{売上債権(6)} + \text{有価証券(7)}) \div (\text{仕入債務(15)} + \text{他流動負債(16)}) \times 100$	
固定比率	$\text{固定資産(12)} \div \text{自己資本(22)} \times 100$	
固定長期適合率	$\text{固定資産(12)} \div (\text{固定負債(19)} + \text{自己資本(22)}) \times 100$	
自己資本比率	$\text{自己資本(22)} \div \text{総資本合計(23)} \times 100$	
負債比率	$\text{他人資本(21)} \div \text{自己資本(22)} \times 100$	
借入金依存度	$(\text{短期借入金(17)} + \text{長期借入金(20)}) \div \text{総資本合計(23)}$	
損益計算構成図		
売上高総利益率	$\text{売上総利益(31)} \div \text{売上高(29)} \times 100$	
売上高営業利益率	$\text{営業利益(34)} \div \text{売上高(29)} \times 100$	
売上高経常利益率	$\text{経常利益(37)} \div \text{売上高(29)} \times 100$	
売上高税引前純利益率	$\text{税引前純利益(40)} \div \text{売上高(29)} \times 100$	
売上高当期純利益率	$\text{当期純利益(42)} \div \text{売上高(29)} \times 100$	
財務諸表比較図		
総資本売上総利益率	$(\text{売上総利益(31)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{総資本合計(23)} \times 100$	
総資本営業利益率	$(\text{営業利益(34)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{総資本合計(23)} \times 100$	
総資本経常利益率	$(\text{経常利益(37)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{総資本合計(23)} \times 100$	
総資本当期純利益率	$(\text{当期純利益(42)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{総資本合計(23)} \times 100$	
自己資本当期純利益率	$(\text{当期純利益(42)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{自己資本(22)} \times 100$	
総資本回転率	$(\text{売上高(29)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{総資本合計(23)}$	
売上債権回転率	$(\text{売上高(29)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{売上債権(6)}$	
棚卸資産回転率	$(\text{売上高(29)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{棚卸資産(8)}$	
仕入債務回転率	$(\text{売上高(29)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{仕入債務(15)}$	
固定資産回転率	$(\text{売上高(29)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{固定資産(12)}$	
自己資本回転率	$(\text{売上高(29)} \div \text{経過月数(1)} \times 12) \div \text{自己資本(22)}$	
損益分岐点分析		
損益分岐点	$\text{固定費(50)} \div \text{限界利益率}$	
限界利益	粗利益(45)	
限界利益率	$\text{限界利益} \div \text{売上高(43)} \times 100$	
経常利益	経常利益(51)	
売上高経常利益率	$\text{経常利益(51)} \div \text{売上高(43)} \times 100$	
損益分岐点比率	$\text{固定費(50)} \div \text{限界利益} \times 100$	
安全余裕率	$\text{経常利益(51)} \div \text{限界利益} \times 100$	
変動損益計算図表		
変動比率	$\text{変動費(44)} \div \text{売上高(43)} \times 100$	
粗利益率	$\text{粗利益(45)} \div \text{売上高(43)} \times 100$	
経常利益率	$\text{経常利益(51)} \div \text{売上高(43)} \times 100$	
損益分岐点売上	$\text{固定費(50)} \div (\text{粗利益(45)} \div \text{売上高(43)}) \times 100$	
損益分岐点比率	$\text{固定費(50)} \div \text{粗利益(45)} \times 100$	
労働分配率	$\text{人件費(46)} \div \text{粗利益(45)} \times 100$	
1人当たりの人件費	$\text{人件費(46)} \div \text{人員(2)}$	
1人当たりの粗利益	$\text{粗利益(45)} \div \text{人員(2)}$	
1人当たりの経常利益	$\text{経常利益(51)} \div \text{人員(2)}$	
1人当たりの人件費(累計)	$\text{人件費(46)} \div \text{人員(2)} \div \text{経過月数(1)}$	
1人当たりの粗利益(累計)	$\text{粗利益(45)} \div \text{人員(2)} \div \text{経過月数(1)}$	
1人当たりの経常利益(累計)	$\text{経常利益(51)} \div \text{人員(2)} \div \text{経過月数(1)}$	
【感度比率の計算式】	「感度比率」は利益がなくなるまでの比率を表し、感度比率が小さい要素ほど利益に対して敏感で「感度順位」は高くなります。「やさしい順」は経費、原価、数量、価格で固定となります。	
利益感度分析	価格	経常利益÷売上高・・・販売単価が何パーセント下がると利益がなくなるか？
	数量	経常利益÷粗利益・・・販売数量が何パーセント少なくなると利益がなくなるか？
	原価	経常利益÷変動費・・・変動費が何パーセント増えると利益がなくなるか？
	利益	経常利益÷固定費・・・固定費が何パーセント増えると利益がなくなるか？

分析項目	計 算 式
生産性分析	
粗利益率	粗利益(45) ÷ 売上高(43) × 100
労働分配率	人件費(46) ÷ 粗利益(45) × 100
経費率	その他経費(47) ÷ 粗利益(45) × 100
安全余裕率	経常利益(51) ÷ 粗利益(45) × 100
1人当たりの粗利益(1ヶ月)	粗利益(45) ÷ 人員(2)
1人当たりの粗利益(1日)	粗利益(45) ÷ 人員(2) ÷ 1ヶ月の稼働日数(3)
1人当たりの粗利益(1時間)	粗利益(45) ÷ 人員(2) ÷ 1ヶ月の稼働日数(3) ÷ 1日の稼働時間(4)
1人当たりの経常利益(1ヶ月)	経常利益(51) ÷ 人員(2)
1人当たりの経常利益(1日)	経常利益(51) ÷ 人員(2) ÷ 1ヶ月の稼働日数(3)
1人当たりの経常利益(1時間)	経常利益(51) ÷ 人員(2) ÷ 1ヶ月の稼働日数(3) ÷ 1日の稼働時間(4)
資金分析	
売上債権回転期間	売上債権(6) ÷ (売上高(29) ÷ 経過月数(1) × 12 ÷ 365)
棚卸資産回転期間	棚卸資産(8) ÷ (売上高(29) ÷ 経過月数(1) × 12 ÷ 365)
仕入債務回転期間	仕入債務(15) ÷ (売上高(29) ÷ 経過月数(1) × 12 ÷ 365)
運転資金増減額	運転資金(当月残高) - 運転資金(前月残高)
現金循環化日数	売上債権回転期間 + 棚卸資産回転期間 - 仕入債務回転期間
レーダーチャート	
売上総利益経常利益率	経常利益(37) ÷ 売上総利益(31) × 100
1人当たり平均売上高	売上高(29) ÷ 人員(2) ÷ 経過月数(1)
1人当たり平均経常利益	経常利益(37) ÷ 人員(2) ÷ 経過月数(1)
1人当たり平均粗利益	粗利益(45) ÷ 人員(2) ÷ 経過月数(1)
1人当たり平均人件費	人件費(46) ÷ 人員(2) ÷ 経過月数(1)
設備生産性	粗利益(45) ÷ (有形固定資産(11) - 建設仮勘定(52)) ÷ 経過月数(1) × 12

〈資料4〉古田土会計版 帳票計算式

帳 票 名	計 算 式
未来会計図表	
変動比率	売上高 (PQ) ÷ 変動費 (仕入・材料費・外注費)
変動費	科目設定で「変動費」に設定した科目の集計
売上高	科目設定で「売上高」に設定した科目の集計
粗利益額	売上高－変動費
粗利益率	粗利益額 ÷ 売上高 × 100
固定費	科目設定で「固定費」に設定した科目の集計
人件費	科目設定で「人件費」に設定した科目の集計
未来費用	科目設定で「戦略費」に設定した科目の集計
労働分配率	人件費 ÷ 粗利益額
労働生産性	粗利益額 ÷ 人件費
何日でFを回収できるのか	固定費 ÷ 粗利益額 × 30日
経営安全率	経常利益 ÷ 粗利益額
利益感度分析	「感度比率」は利益がなくなるまでの比率を表し、「感度順位」が高い方から順位が付けられます。
【感度比率の計算式】 P	G (経常利益) ÷ PQ (売上高) …………… 販売単価は何パーセント下がると利益がなくなるか？
Q	G (経常利益) ÷ MQ (粗利益額) …………… 販売数量が何パーセント少なくなると利益がなくなるか？
V	G (経常利益) ÷ VQ (変動費) …………… 変動費が何パーセント増えると利益がなくなるか？
F	G (経常利益) ÷ F (固定費) …………… 固定費が何パーセント増えると利益がなくなるか？
損益計算書	科目設定で「変動損益項目」で設定された科目が表示されます。
キャッシュフロー計算書	科目設定で「古田土CF」で設定された科目が集計されます。
資金別貸借対照表	科目設定で「資金別項目」で設定された科目が表示されます。

〈資料5〉古田土会計版 CF項目の損益科目の集計項目、計算方法

古田土会計版のキャッシュフロー計算書では貸借科目は選択したCF項目のみ増減させますが、損益科目は選択したCF項目に対応する2つの集計項目で加算と減算を行い、キャッシュ・フロー項目間の金額調整を行います。科目設定画面の損益科目の古田土CF項目に対応する「集計項目」、「計算方法」は以下のとおりです。

古田土CF項目	集計項目 (営業活動によるキャッシュ・フロー)	集計方法	+/ー	集計項目 (投資活動によるキャッシュ・フロー)	集計方法	+/ー
減価償却費	減価償却累計額	増減額	+	有形固定資産の購入及び売却	増減額	ー
有価証券売却益	その他(貸倒損失等)	増減額	ー	売却可能有価証券の購入及び売却	増減額	+
有価証券売却損	その他(貸倒損失等)	増減額	+	売却可能有価証券の購入及び売却	増減額	ー
有価証券評価損	その他(貸倒損失等)	増減額	+	売却可能有価証券の購入及び売却	増減額	ー
固定資産売却益	固定資産売却・除却損益等	増減額	ー	有形固定資産の購入及び売却等	増減額	+
固定資産売却損	固定資産売却・除却損益等	増減額	+	有形固定資産の購入及び売却等	増減額	ー
固定資産除却損	固定資産売却・除却損益等	増減額	+	有形固定資産の購入及び売却等	増減額	ー
保険積立等利益	その他(貸倒損失等)	増減額	ー	保険積立金の購入及び解約等	増減額	+
保険積立等損失	その他(貸倒損失等)	増減額	+	保険積立金の購入及び解約等	増減額	ー
その他利益	その他(貸倒損失等)	増減額	ー	その他の増減	増減額	+
その他損失	その他(貸倒損失等)	増減額	+	その他の増減	増減額	ー
補助金収入	その他(貸倒損失等)	増減額	ー	その他の増減	増減額	+
棚卸評価損	その他(貸倒損失等)	増減額	+	棚卸資産の増減 ※	増減額	ー

※営業活動によるキャッシュ・フローの集計項目

純キャッシュの「減価償却累計額」は、科目設定の損益項目の古田土会計版CF項目で「減価償却費」と選択したものが、集計されます。

帳票上は、「減価償却累計額」と貸借対照表の科目名になっていますが、実際は、減価償却費が集計されます。

本来、キャッシュフローの動きは、貸借対照表の動きなので、帳票上の表示も、貸借対照表の科目である「減価償却累計額」に統一しました。

(税理士法人古田土会計監修)

会計参謀 for 弥生会計 27 ユーザーズマニュアル

初 版 2026年 9月

発行所 プロ・ビジョン株式会社

〒810-0013 福岡市中央区大宮1-5-30 3F

TEL 0120-937-389 FAX 092-525-6867

<https://www.p-vision.net>

- ご注意
- ①本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
 - ②本書の内容に関しては訂正・改善のため、将来予告無しに変更することがあります。

Copyright © 2026 Provision Co., Ltd. All rights reserved

弥生会計は、弥生株式会社の登録商標です。

会計参謀は、プロ・ビジョン株式会社の登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Windows NT®は、

米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。